

昭和四十二年九月招集

第三回市議定会定例会会議録(第二号)

館山市議会第三回定例会会議録(第二号)

昭和四十三年九月招集

一九四三年九月三十日(月曜日)

一 議事日程(第二号)

第一

議案第六十四号

館山市消防本部および消防署の設置等に関する条例の制定について

議案第六十五号

館山市非常勤消防団員に係る退職報償金、支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第二 議案第六十六号

館山市通港管理条例の制定について

第三 議案第六十七号

館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定について

第四 議案第六十八号

館山市国民健康保険直営診療所使用料

条例の一部を改正する条例の制定について

第五 議案第六十九号 市道路線認定について

第六 議案第七十号 館山市奨学資金貸付条例の制定について

第七 議案第七十一号 心身障害児童に対する助成に関する条例の

制定について

第八 議案第七十二号 館山市附属機関設置条例の一部を改正

する条例の制定について

第九 議案第七十三号 館山市児童家庭保育に関する条例の制定

について

第十 議案第七十四号 昭和四十三年度館山市一般会計補正予算(第

三号)

第十一 議案第七十五号 昭和四十三年度館山市南部簡易水道特別

会計補正予算(第一号)

第十二 議案第七十六号 昭和四十三年度館山市国民健康保険特別会

計、補正予算（第一号）

午前十時三十五分開議

議長（吉田勇治郎君）本日、出席議員数 二十四名、

ニ、第三回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。
本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
この際、議事について申し上げます。

本日の議事案件の内容説明は初日の会議において終了
しておりますので、本日はただちに質疑より行ないます。

この際申し上げます。教育長押本禧逸君は本九月三十日
付で任期満了となります。まうてごあいさついたしたことの申
し出がありますので、暫時、これを許します。

（教育長登壇）（拍手）

。教育長（押本禧逸君）本日私。任期满了に当りまして議長さんから特別におはかりをいただき本議会より貴重なお時間をとおさきくださりあいつを述べた機会を得ましたことを本当に私の生涯を通じ、光栄に存ずるところでございまして厚くお礼を申し上げます。

顧みますと、館山市教育と私と結ぶつきにつきましては、昭和十一年四月北条小学校訓導として職を奉じましたことが、できましてから終戦の年昭和二十年四月に千歳村国民学校長に転出するまで十年間、ついで昭和二十八年五月鴨川小学校から果下一のマンモス中学校でありました市立第二中学校に転じ、昭和三十九年三月退職するまで十一年間、さらに同年十月本間市長が機会を同意を得て市教育委員、同教育長に任命を受けて本日に至った四年間、延二十五年間、長きにわたりまして

勤務させていたいただいわけでございます。

特に教育長としての四年間は市教育委員会、指揮監督、もとに乏しい身をもちまいて事務局を統括し本間市政の三大重点施策の一つであります教育行政について、学校教育の面から社会教育の面から保健体育の面から、そうして膨大な教育予算、編成等々、広い領域にわたりまして三課長をはじめ事務局職員二十名、職員と一体となりました誠意を持って市教育行政振興のために尽力して参ったわけでございますけれども、二、三問にとき、問題として帰服いたしました中学校統合問題、地元の熱意と協カによります二つの講堂兼体育館の建築のこと。

さらに三つ、水泳プール、新設幼稚園問題、又負担軽減等のいろいろの行政的なむづかしい問題、解決につきましては、常に市当局並びに議会各全員の方々の適切な

御指導、御協力のもとに大禍なく遂行できましたことをいろいろ思い起こしましてここに改めて感謝申し上げる次第でございます。

今や、地方教育委員会も広域行政下の胎動の中に活発な活動を開始されますときに市長さんは一早く教育優先の方針をお立てになり、すでに房南中学校建設は本年度中に竣工し、さらに北条小学校、北条幼稚園の大改築、三市町村の学校給食一部事務組合が結成されました。知事の認可もき、市教育発展の時代に突入しているわけでありまして、まことに喜びにたえないところでございます。

今職を去るに、ぞみまして、浅学非才の私に各方面から御指導と御鞭撻と御協力をお寄せいただきまして、議会の議長さんをはじめ議員各位が皆さん並びに市当局の

方々に改めて感謝をささげますとともに終りに館山市及び市議会へ発展を心から祈念いたしまして退任の言葉といたします。ありがとうございます。（拍手）

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。

ただいま市長から議案第七十七号、館山市教育委員会委員の任命についてが提出されました。これを本日、日程に追加し議題とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）御異議なしと認めます。

よって日程は追加の議題とすることに決しました。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

議長（吉田勇治郎君）議案の配付漏れはございませんか。——なしと認めます。

議案第七十七号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十七号 館山市教育委員会委員の任命について

議長(吉田勇治郎君)本案についての説明を求めます。

(市長 登壇)

市長(本間譲君)第七十七号議案につきまして御説明申し上げます。

御承知のとおり本市の教育委員押本教育長・半沢教育委員が本日もちまして任期満了に相なったわけでございまして、その後任として押本教育長の後任に高木正氏、半沢委員の後任として佐久間庄一氏をお願いいたします。高木氏は千葉県師範学校より専攻科を卒業されまして、県教育指導委員を歴任して、富崎の小学校校長から神戸の小学校校長にな

りまして現在神戸の小学校長をやっておられるわけでございますが、高木さんは非常に教育については、安房郡でも立派にやっておられるという方で、人格、識見とも非常に立派な方であるわけでございまして、御推薦を申し上げ、御了承を得たいと思ふわけでございます。

また、半沢委員の後任の佐久間庄一君は、安房高等水産高校を卒業、今の国立電気通信大学の前身の学校を卒業されまして、現在はワールド産業株式会社を経営しておられます。まして、四十七歳でございまして、新進気鋭で、人格、識見ともに、まことに教育委員にふさわしい人と私は考えまして、御推薦申し上げまして、議員の各位の御協賛を得たい。こういう次第でございますから、よろしく御審議をお願いしたいと思います。

議長（吉田勇治郎君）本案について、説明を終わります。

御質疑を求めます。

御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

ただいま議題となっております。議案第七十七号、本市教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって本市教育委員会委員に高木正君、佐久間庄一君、西君を選任することに同意と決しました。

この際、議事についておはかりいたします。

九月二十七日市長から提出された議案第七十号及び議案第七十二号について、その一部を訂正したい旨を申し出があります。

こゝ際、議案第七十号及び議案第七十二号訂正の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）御異議なしと認めます。よて議案第七十号及び議案第七十二号訂正の件を日程に追加し議題とすることに決しました。

議案を配付いたします。

（議案配付）

議長（吉田勇治郎君）配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

本訂正案について説明を求めます。

福祉事務所長（池田亮山君）原案の訂正について御説明申し上げます。

第七十号議案でございます。第三条のうち一号の「館山市

内に本籍または住所を有する者」ということになっており
 ましたのを「館山市内に一年以上生活の根拠を有する者
 というふうに改めたわけでございます。」と申しますのは本籍
 と住所のそういうわけが、館山市にあった場合にも館山市民
 としての義務の履行と申しますか、そういった関係を持
 っておるということでございすので、これを「館山市内に
 一年以上生活の根拠を有する者」というふうに訂正させ
 ていただきたいと思います。」と申しております。

次に第九条でございます。第九条を第二項の規定を
 三項といたしまして一項及び従来三項を全面改正して
 新しいものにいたしましたわけでございます。

第九条「奨学生であった者は、貸し付け期間を満了
 した月の三月後から在学中、貸し付けを受けた年
 月に相当する期間内に、借り受けた奨学資金を月

賦均等方式により返還しなくてはならない。ただし保り上げて返還することができると。

二項、次条の規定により返還すべき債務の一部の免除を受けた者にかかわる返還についても前項の例によるものとする。

三項は従前の二項でございましてそのままでございます。改正の理由といたしまして最初に申し上げましたものは、修学期間を満了した三月後から借り受けた期間の三倍の期間で償還するというものであったわけでございます。

いろいろ資金等や試算をいたして見ました上でとにかく、当分、間、貸し付けた三月後から借り受けた期間内に要するに貸し付を受けた期間で返しても可。こういうふうな改正をいたしたいというものでございます。

それからなお改正前のものにつきましては、月賦均等払い方

式につきまゝして、その規定がございましたが、この第一項でその関係は満ちておるといふ考え方で従前の第三項を省略したわけでございます。

新たに改正しまして二項でございませう。

「次条の規定により返還すべき債務の一部を免除を受けた者」要するに第十條の一部の免除もしくは身障者奨学生に対して貸し付けたものの返還すべき債務の二分の一額を免除する。

二分の一の免除された人の償還方法は要するに九條第一項に規定してありますように二分の一でございませうから、返還の金額も二分の一ずつを返還していただければよろしいのだというふうに改めたわけでございます。

次に第十條でございませう。

十條の第二項に「身障者奨学生に対して貸し付けた奨

学資金については、前条の規定にかかわらず、返還の債務云々というふうに規定してあったのでございますが、これを「身障者奨学生に対して貸し付けた奨学資金については、返還すべき債務の二分の一の額を免除する」というふうに前条の規定を準用する必要がなくなったわけでございますので、「前条の規定にかかわらず」を削りまして、「返還の」を「返還すべき」に改めたわけでございます。以上が七十号の変更箇所についての御説明でございます。

次に七十二号の変更でございます。

別表中の上から二段目「奨学資金の貸し付け及び特殊学級就学児童に対する」というふうに規定してあったのが、奨学資金の貸し付け及び身障害児童に対するに要するに特殊学級七十一号で特殊学級とそれからその他ろう哑学校等の事項という食い違いが出ますので、ただ

単に心身障害児というふうには訂正させていたいただきたい。以上簡単でございますが、御説明申し上げます。

議長（吉田勇治郎君）以上で御説明を終りました。

おかけいたします。

議案第七十号及び議案第七十二号の訂正の件はこれを承認することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）御異議なしと認めます。よって両議案の訂正の件はこれを承認することに決定いたしました。

日程に入ります。

日程第一議案第六十四号、議案第六十五号を一括して議題といたします。なお説明は終っておりますので、ただちに質疑を求めます。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第二議案第六十六号を議題といたします。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第三 議案第六十七号を議題といたします。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第四 議案第六十八号を議題といたします。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り可決されました。

日程第五議案第六十九号を議題といたします。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

日程第六議案第七十号を議題といたします。

本案について御質疑を求めます。

四番(伊賀多朗君)ここに人数が書いてございますけれども、どぐらいう予定でございますか。教えていただきたいと思います。

福祉事務所長（池田亮山君）現在、ところ考えておりますのは、高等学校五名、それから三年後と申しますか、四年目にたりまして、大学を三人というふうに一応考えております。

四番（伊賀多朗君）五人と申しますのは、新しく入る人ばかりです。か、来年になってからですが、今の一年生が二年生になります。が、二年生、三年生も該当するわけですか。

福祉事務所長（池田亮山君）来年四月に二年、三年^年に在學している者も適用するかどうかということですが、一応、条例上は、そういうことになるわけでございます。

考え方をいたしまして、来年高等学校に入学する者を五人というふうに考えております。

四番（伊賀多朗君）最後、附則のところ、に大学にいく人は四十七年からということになっておりますが、今いった話で

二年生に貸し付けると一年ブランクができる。三年生に貸し付けると二年ブランクができる。大学については四十七年にならなければならぬという事態が起きるわけで今のことをお伺いしたわけですが、これは選考の過程においてそういう方針を打ち出すわけなんでしょうか。何か考えていらっしゃるかどうか。

・福祉事務所長（池田亮山君）条例上から申しますと、ただいまのような結果になってくるわけでございますが、現実の問題といたしまして、これは選考委員会の答申と申しますか、そういった御意見を尊重いたしてそうなるわけでございますが、現在におきます基本的な考え方として来年度の高等学校に入る人からそれを行なういきたいという原則的な考え方を持っております。

・四番（伊賀多朗君）その点はわかりました。せっかく高等学校でもらうていて、大学に入ってももらえないのだという事態

が起きてもしけませんから、その点御配慮いただきたいと思ひますし、それと同じことなんです。が、高校で五名もらっておつて五名とも大学に入ったという事態も起きるわけですね。さんが、高校でもらつた。大学にいけばよいからいいというところが起きる。五名と三名という人数がひつかかつて参ります。が、そういう点、いかがですか。

・福祉事務所長(池田亮山君)たとえば来年度高校生五人に貸し付けた。そうしますと、三年先におきまして四年目になります。と、その人たち、該当者が全部大学に入ろうとした場合、その場合に選考委員会の決定に基づきまして、そのうちから三名を選んでいただくというふうな考え方を持っております。人数は条例上、何人でなければならぬということは申さないと、思ひますが、一応目安といたしまして、そういうふうな考え方があります。

・四番(伊賀多朗君)そうするともう一回お伺いいたしますが、高等学校でやめる可能性がある人もある。大学に進学する希望のない人もある。そういう人でも、適当な人であれば五名の中に入る。高等学校で終るか、終らないか。その時点にならなければわからないうけですが、その点の選考の基準がむづかしい。高等学校だけでやめるような人でも対象になり得るわけですね。

・福祉事務所長(池田亮山君)今、御質問は要するに来年の四月に入りました生徒が高等学校で終るのだという人でも、こゝに該当するかどうかという御質問のうように承っておりますが、もちろんそういうことでございます。

高等学校の生徒も五人四年後と申しますか、そのとき、大学に入ります。もう三人というふうにかえるわけでございます。従つて高等学校だけで大学にいく希望でない人も、

こゝ五名の中に一応考えております。入るわけでございます。四番（伊賀多朗君）人数関係、金額関係のことはわかりました。そうしますと、五名でございますと、これで資金の関係のようになりますが、その資金は元金があって、その利子だけでまかなうわけですか。資金もある程度、それに充てていくお考えなんですか。

福祉事務所長（池田亮山君）いろいろ資金のことで計算、検討したわけでございますが、これを元本を一度に積み立てて、その利息、そういったものから、これをを行なおうとするには、相当膨大な数字の基金を要するわけでございます。従って、年々、寄付もしくは一般会計から繰り入れ金等をもつて貸し付けていくことでございます。

一番最初から、山ほど積んで、その中からというの、館山市の現在、財政上考えられないと思つて、いるわけでございます。

仮りに申し上げて見ますと来年度から始まりまして、十五年目までございます。その程度になりまして、はじめて持ち出しのない運営ができる。

次々に貸して返還を受けてという計算をして見ますと十五年目程度になりますと、十五年間貸し付けていきましたもうとうバランスが取れていくことになります。

ただいま申し上げました人数で試算したわけでございます。四番(伊賀多朗君)十五年目というところでございますが、この地域の人材の開発でございまして、非常に長い目で見なければならぬと思ひますが、その間における寄付というお話と一般財源というお話ですが、集める募集金と申しますか、そういう見当はどうかという予定でございいますか。寄付額と一般財源から入る額。

福祉事務所長(池田亮山君) あるいは御承知かと思ひます。

けでございませうが、すでにこの基金にということでは
 万円、寄付し申し入れがあるわけでございます。従つて
 この条例が施行されましたあかつきにはそういった篤志の
 方々が続々とこの資金に御参加、御寄付をいただ
 けるものであらうというやうな想像となお一般会計か
 らう年々貸し付けていきます不足分につきまゝでは、
 これは一般会計からつぎ込んでいくより、やむを得ないだ
 ろうと思ひます。ただ、今申し上げましたすでに申し込
 んだを受けております百万円で三カ年間は大体、このま
 まかたが合つていく。従つて今後、三カ年間、間に寄
 付の申し入れ等がございましたら、この一般会計は当座
 の間、そういったことは必要ない。ただし年間五人と申し
 ます。二年目になると十人になるわけでございます。
 そういふふうにふえていきます。資金はねずみ算式

にふえていきます。従つてある場合には、当然一般会計の繰り入れをもつて、こゝをまかなう必要が出てくる。かまうに考えます。

。四番(伊賀多朗君)資金の確保ということが大へんな問題でございますが、その關係することになると思いますが、はじめる案では三倍の年限で返すという事でございましたが、今度は三年借りたう三年で返す。同年月で返すということになっております。こゝは返す方々の立場にたりますと非常につらい就職してすぐ月給をもらうかもしれません。が、大学に残つて研究する人もあります。きちんと同じ年月になるとつらい事態にも起きてくると思います。資金は確保しなければならぬと思ひますが、資金確保を急ぐあまり、そういうことですと返すときに問題が起きてなかなか実行できないという面が起きます。

のではないかと心配するわけでございます。

せつかく当地方々人材の開発ですから大いに貸してあげて大いに勉強していただいて優秀な人物になっていただいで地域社会に貢献していただく人を大いに作っていただきたいと思ひますが、そのためにもある程度長い目で見てやる必要があるのではないかと思います。その点いかがでしょうか。

・福祉事務所長（池田亮山君）お説々とおりでございます。

ーかしながら、私たちも資金の面で積算して見ますと、これを三倍の長さという事でいきますと、膨大な数字になるわけでございます。そこで、それと同時に考えられますことは、あまりに資金が多くなつて、館山市の財政ではどうていまかなえないという事態も生じかねないわけでございます。そういったことを考え合わせますと、この仕事を幅を広く多くの人たちで育成という事に重きをいたしますと、若干

年数についても無理と申しますか。そういったものを生ずるかと思うわけであります。なるべく幅広く人数も多くということでございます。

そういったことを考え合わせまして借りの期間の内に借りたいだけの額ずつ返還していただくということにさっき御説明申し上げましたように改めたわけでございます。

一口に申しますと、なるべく多くの人たちにこういった機会をこうした資金によって多くの人たちに修学や機会を与えてやることの本質ではなからうかと考えておるわけでございます。

四番(伊賀多朗君)お話しことよくわかりました。返すということとが実行さしなないと財源に直接響くわけでございますから、また借りた人は返す立場になるわけですから、その辺のことを考えて是非執行していただいて資金を確保していただきたい。返す方も楽にしているいただきたい。大勢の人にも

貸していただきたい。この地域の人たちの喜びは非常に多い
と思いますので、その点要望いたします。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前 十時五十五分 休憩

午後 十一時十二分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

二番(中村省吾君)四番議員に強く関連する事項もあり
ろうかと思われますけれども、三御質問申し上げます。
この奨学資金貸し付け条例でございまして、生活
困窮者に対して教育の機会を与えるという趣旨にはも
ろ手を上げて賛成するものでございます。

趣旨につきまして、そういう意味からまず、条例の中

第三条の第四「経済的理由によつて修学が困難な者」このことが説明の中で説明されたと思ひますけれども、もう少しはつきりと具体的に御説明願ひたい。それからその前に「館山市内に一年以上生活の本拠を有する者」というふうに訂正されたわけでございますけれども、「本拠を有する者」ということが、これは当然館山市内に住所を有する者と解釈はいたします。これが家庭であるか、本人であるか、その点も御説明願ひたい。以上二点をまず御説明願ひたいと思ひます。

。福祉事務所長（池田亮山君）まず第一点の御質問でございますけれども、ここでも「経済的理由によつて」云々、経済的理由という限度でございますが、これは一応福祉年金や受給資格と申しますか、それ以下の人を一応対象に考える。こう考えております。

それから第二点の問題でございます。「生活の本拠」でございます。

これは家庭を考慮しております。家庭の子弟でございますから、館山市に家庭のある生徒というふうに考えております。

○ニ番(中村省吾君) そうしますと、第二番目「館山市内に本拠を有する者」ということが、家庭が住所を有するということであつて、大学進学の場合に或いは高等学校でもそういうことが言えるかもしれませんが、本人がたとえば大学に入ったという場合に当然住民票を異動する場合が多いわけでございますが、そういう場合でも適用になる。このように理解してよろしいわけですね。

・福祉事務所長(池田亮山君) お説のとおり解釈しております。

○ニ番(中村省吾君) 経済的理由、福祉年金の受給資格以下、これもわかりました。

そこで、このように経済的にいわゆる困っておられる方の子供さんたちも進学の道が得られるという趣旨でございます。まことに結構なことでございます。ところが、四番議員さん、先ほど申されておりまして、たけれども、いわゆる返済の項で若干御質問があったわけであります。

御答弁の中で適切を受け取る人となるべく広くつづいていきたい。それがためには資金が足りないのだ。このような説明があった。従って限られた資金の中では、こういう返済方法を遺憾なく取りたい。ならばならない。こういう説明になるわけでございます。そこで、この返済方法でございますけれども、訂正の前には、給付を受けた年月の三倍の期間に返済するということであつたわけです。

今回は給付に相当する年月期間内に返済する。こういうふうに変更された。このことを逆に私考えて見ますと、

大学で給付を千円受けた人たちが、現在大学を卒業して館山市役所に就職したとして、初任給一万九千円、そういう給付を受けるわけでございます。一万九千円受けた方がその中から、いろいろ控除を引かれて、実清とか、いろいろのもうを引かれます。おそらく手取り一万五千円ぐらい一万五千円ぐらいの中、八千円引いて、果たして生活できるかどうか、おそらくできないと思います。なお、かつ、この人たちは、裕福な家庭の子供たちではないわけです。はじめから言われるように、福祉年金受給資格以下の家庭である。だとするならば、その方々収入というものは、その家庭にとつては、きわめて重大なことになろうと思うわけであります。

一万九千円という本俸は、手取り一万五、六千円になると思いますが、すけれども、その一万五千円というのは、非常にその家庭にとつて

大きなものである。その中から八千円取って生活できるかどうかという問題になるわけでございます。こうならば、こゝは、返済できない。こういうことがおそろく明らかだろうと思えます。高校卒に――しても、高校卒で確か、市役所の場合、一万五、六千円だと思えます。一万五、六千円ぐらいが初任給。そうするとやはり同じようなことが言えるのではなからうか。そういう返済がきわめて困難だということが始めからわかったものだと。私たちがここで認めるといふことは、どうかと思ふ。この点に關して、こゝを修正するからには、たとえば、こういう返済するに、は、こういうことだから、返済できるのだという計算の基礎がおそろく立つておられると思う。一体、どういう基礎で修正されたか。その計算はどのような基礎に基づいてなされたか。御説明願いたい。

福祉事務所長（池田亮山君）お説まことにごもつともでござ

います。従つて私たちも最初の方では三倍の期間
という事で出発したわけでございます。ただこの条例で
出発します。その時点におきましてまず資金問題が
考えられてくるわけでございます。今、お話を将来、
この基金に投資される財源が幸いにて得られた
とすれば、当初の方案に改正する必要があることを痛感し
てゐるわけでございます。

ただいま最後に申されました返し得る計算ができて
おるかとかという事でございます。これはもう私が
申し上げるまでもなく、一万なにがしの給料を取つてそう
して八千円という金を返すのは困難なのは確かにその
とおりでございます。とおりでございますが、一かきまず、
この条例のすべり出しでそういったような条項で出発して
いきたい。かように考えてゐるわけでございます。

なお、あくまでも仮定でございます。条例の上からいいますと、高校の先ほどの五人と申しましたが、高等学校を三カ年間貸し付けまして五人が大学に継続していかなかった場合、ただちに四年目に大学の八千円を貸し付けができていき、なおかつ四年後には八千円が返済が出てくるわけでございます。これも来年度の四月のときに、まず、高等学校の五人を選考いたしまして、そうしてそれに貸し付けを開始したとき、その者が成績がまことによく、一かも経済的理由が好転しなかった場合、引き続いて大学を希望する場合、改めてその者が大学を貸し付けを選考していただくわけでございます。従ってその結果によりますと、五名で出発したものが、その年度に借り受けを始めました者、二人がいゆる貸し付けを定める人、開始する人で三人が大学まで引き続いて貸し付けを行なう人に

かけてくるということも、仮定では成り立つわけでございます。
 従って通算いたしますと、七年間、貸し付け、貸し付
 けを受けた期間ということでございますから、七年間
 で貸し付けを受けたものは、七年間で返済すればいい
 んだということになりますと、八千円でなくて五千円あまり
 約五千八百五十七円という数字がございます。大体五千九
 百円ぐらいを月々、大学を出たあとで、高等学校から
 大学に通算していきした場合に五千九百円、程度を
 月々返していただく。そういう計算も成り立つわけでご
 ざいます。これはあくまでも、仮定のもとでございますが、
 条例上は確かに中村議員のおっしゃるように、大学は大学、
 高校は高校に一定考えなければならぬと思ひますが、
 これは選考基準、選考するとき、当然考えらるべき
 問題であらうかとも思ひます。

。ニッ番(中村省吾君)今最後におっやうしたこと。まず、そのことから
お聞きしますが、高校卒で引き続き大~~大~~学にいった場合に
五千円にがしという表現をさしました。

五千八百幾らということをおっやうしましたが、この条例の中で
は、そういう計算は出てこない。この条例の中では、あくま
でも高等学校は三千円、大学は八千円というふうに明
記してあるわけなんです。それに対して返還はどうだという
ことを記載しておるわけであります。従って高等学校
で給付を受けた者が引き続いて大学で給付を受ける
という場合には、それに対する条文をもう一項どこかに挿
入しなければ今課長がおっしゃったような計算は出てこない。
まず、その点が一点、そのことが一体何条によつてそういうこと
を算出されたか、その問題が一点でございます。

それから今高等学校五人で出発するということをおっやう

いた。ところがその児童はあくまでも福祉年金を受給するよう以下り家庭の方たちなんです。非常に優秀な方であっても八千円が給付だけではとうていこれは東京に出て大学の生活はできない。従って今、高等学校を卒業したから、この段階で家庭や都合で就職をしようと。いう人たちも私はおろうかと思うんです。必ずしも五人の中の三人が大学まで進学するとは私は考えません。そういう場合も当然ある。ところが大学は四十七年からだ。そうしますと、その五人の中で三人があるいは一人がいくかもしない。二人がいかない。こういう仮定もある。そうしますと、新たに大学だけを適用さすということも考えられるわけなんです。従ってそこに八千円を返済ということとは、当然起り得るわけでございます。そういうふうな点を考える。まず、もって八千円という事実でございますから、館山市の

給与体系の中でも、大学卒で一万九千円。その中から、先ほども
言いましたように、一万九千円の中で手取りが一万五、六千円になっ
てゐよう。その中から、八千円を引いて果たして生活ができるか
言いかえれば、生活能力があるか。やはり、私らは、この条例は趣旨
は賛同いたしますけれども、これがやはり、市民として本当に活用
できる条例でなければならぬ。そうでなければ、何ら意味がない。
そういう観点から、私は返済についての問題を今申し上げておる
わけでございますから、いま一度、そのような三年で返せるのだと
いう一つの根拠をもう一ぺんはつきりと御説明願いたい。

市長（本間譲君）中村議員さん、ただいま結構な御意見で
ございますが、これは資金の問題が大きな問題になつてい
ろいろやうおるのですけれども、今、高等学校を卒業すると
市役所では、一万八千四百円ですか、払つておる。三年先になると
またベースアップを行ないますし、三千円ぐらい返すということは

そうむづかしくならぬと思います。あまりに長く貸して
おると弊害が伴う。

一か十一条に救済規定がございます。

病気とか、天災とか、その他の事由によつて、という場合にそ
れをゆるめることもできるということになるわけだ。ございます
が、今、もう一つは、高等学校と大学の通算規定がない
というようなお話のようですが、これは条文に入れてもいいか
と思いますね。疑問があるならば、こちらの方では借りて
おる期間内、三年に四年で七年ということに考えてお
るわけですが、条文上、欠陥があるとすれば、高校、大学
を通算して期間の返済ということに入れたらば、そういう
ことで、そういう疑問があれば考えて見まゝて申し上げ
たいと思います。いづれにしても、私はやはり、なるべく早い
期間に返すということが、本当です。そういう考え方で

借りた方がいろいろ事情がありましようけれども、ついおつこう
になるでしようし、忘れがちになるでしようし、やむを得ない人に
対しては十一條の救済規定によつてのばすこともできるわ
けですから、十一條の規定によつて救済ができるわけです。
。ニ番(中村省吾君)市長さんの言われることはわかつておる。
実は条文のことからいいますと九條になるのだ。そういう
趣旨がある。ところが現実の場合には二に要する審議
会より査定を受けることになっておる。貸し付けを受ける
場合には、審議委員会よりそうすると高等学校を受
けるときに審議委員会の査定を受けてさうして三年終
ると改めて大学の申請をしなければならぬ。さうして
大学進学に對するこの者が妥当であるかということ
を審査会より議を経なければならぬ。従つてはつきりと区
分ができておる。だから、将来のこと、これから先、さうと

することを決める。従つてそういう場合にこういう返還方法が取られるのだという項を起すことが、妥当である。こゝから、先、作るうだから、はつきりすべきだ。さもないと、当然、審議会ということを二度受けなければならぬ。そのことは、必要だろうと思ひます。

それから、早く返済して、こゝも当然でございします。カー、その返済が非常に困難視されるということとをきめることがどうか。当然、今、時点から考えても、その金額を返済することが困難であろうということとをわかつておりながら、そういうことをやう実施して見た。こげつきがある。そういうことではいけない。

私はむしろ、基金に重点を置くならば、この高等学校が一人でもいい。そういう考え方が、まだ納得できる。

基金がたいから、高校五人はできない。一人だといううな

考え方がらば、条文の立法の精神からいうならば、まだ納得
できるわけでございます。――カー、ここで、人数を仮りに三
五人ときめて、これを運用するに基金が百万とか、きまった額
――かないから、従つて返済も――うだということでは、生きた条
例にはならない。

本當に市民のために経済的に困難な方たちが、それによ
つて救われるという私は、条文では無いと思ふ。――そういう意
味におきまして、もう少し考へる必要があるのではないか。
なお、付随して申しますが、基金ということを再三申し上げて
おられるようでございます。非公式には、市長さんも説明の中
でも、申さかたと思ひますけれども、百万円の基金のほかに、
いろいろ篤志家の寄付をつうぐということも申さかた。
それ、そういう篤志家が、たくさんあれば結構でござい
ます。――カー、あくまでも、こういうことは、寄付というものが

を前提にしないであらう。市が独自の形で何らかの基金を拠出するという面を考えなければならぬ。

そういう面で市長さんのお考えをちょっとお聞きしたいと思いますが、すくなくとも、今、館山市が競輪の配当金といま

すか。今年度七千六百万が、見込まれていると思います。

予算では七千二百万ですか。こういう性質の金こそその一部をこういう制度の上に仕向けたいどうか。それこそ私自身競輪の収益というものを何か、そのまま、私たちが一般会計に入れるということに抵抗を感ずる。一か！ そのものを、こういうったような生きたものに使っていくということであるならば、何かそこに罪ほろぼし的なことも考えられる。

従って七千万からあるその一部一千万ぐらいもその基金としても私はいいと思う。それができないならば来年度は五百万を積み立てて、あるいは三年継続で

百万ずつ積んでいくという方法もあると思う。そういうことに
よって基金というものを蓄積するということがいいと思う。

そういうことを考えるならば、ここで返済にすでに、こげつきそうな
条例を作らずにもう少し、基金の面で私たちが、何か方法
を見出して、そうして活用する方は、安心して活用できるよ
うな制度こそ、本当の市民のための条例であらう。また、
市長がいわんとする、こういう不遇な方を救おうという説
が、それでこそ、市民にこたえるものがあるかと思ひます。
いま一つ、市長さん、御答弁を願ひたいと思ひます。

。市長（本間譲君）中村議員さん、今の基金の問題につき
まいて競輪の方からというお話でございしますが、館山市
は本年もそうですが、来年も三年ぐらいは現在の情
勢では非常に財政が窮屈でございまして、それは、い
ろいろ学校を建てるとか、いろいろ仕事をしておる関

係上、そうですが、競輪の収入というものは、最初から
 あてにしておるわけですよ。ですから、それをたくさんは
 ずすということも、財政上、なかなか困難でございます。が
 ーカー、幾分か、私は今のお話によろ、基金の方に
 回わっていきたいというふうに考えております。が、現在
 におきまゝでは、大体来々四月、出版時においては、三
 百万ぐらいの基金で出版したい。それには、現在百
 万の寄付が、ございますから、あと百万円以上もらえら
 と思ひますが、市民の有力な方、争財、寄付という
 ことでお願いして、市費の方は、私の方では、現在、
 経済情勢では、なるべく篤志家の寄付をもらって、
 に充てたい。不足するものは、今やうな競輪の方から補
 けていきたい。というふうに考えておるわけでございます。
 それから、いろいろお話の中に、高等学校から、大学に

いくというには、高等学校が終った時点で審査をまた
ーなおすわけですわ。審査をーなおすということは、三年
たてば、経済状態も違ふー。三年前には、生活に困って
おつても、三年たつて好転する人もおりますから、そういう
こともあるー。いろいろ關係で一応は三年たてば、また、
改めて大学にいく人に対しては、審議会にかけていく。こう
いうことでございますが、返済についてのお話でございます
が、通算ということは、さつき申し上げました条文中で
も、検討して参りたいと思ひますが、返済ということは、高校
を出た人は、一万八千四百円ですか。その中から、三千円ぐらい
ことは、無利息で三年間借りておるんですから、それぐらいの
觀念を持つ方がいい。あまり長く貸すということはいろ
いろ弊害が、出るうではないですか。

大学出で二万九千幾らですか。三年間うちには、ベース・ア

ツプがあるから三千円ぐらいのものは出る。ちゃんと返すということが基本でございます。あまり延ばすというところはいろいろ弊害が出るんですわ。どういっても調べて見ると、やむを得ない場合には十一條の規定で期間を延ばすとか、いろいろことができると思いますが、とも、基本的には、借りたのだから、早い期間に返す。就取すわけ返すということ。で、やむを得ない場合には、委員会で認めらるれば期間も延長できますから、そんなにあまりゆるやかに、過ぎてもかえってまずい。やはり返すべきものは返すのだ。あとから続かゆる人に、その金を回わしてやるというところがいいではないか。私はそう思います。

。ニ。番（中村省吾君）人事課長にお伺いいたします。
高等学校卒と大学卒の初任給、それだけ。

人事課長（小沢正治君）試験採用で一号差をもってあります。

正規の場合、高等学校で五等級、二号が初任給の格づけ、それから一から四号ということで二万千九百円、これが大学卒の初任給でございます。

ニ番（中村省吾君）そうしますと、正式に試験を受けた者が、そういうことだということですね。それはそれでよろしいと思います。正式に試験を受けた者が今うお話で私は何号俸アップということにはわからないから、初任給だけを見ておりまして、二万千九百円、二万千九百円、中から、失済とかいろいろものを引いて手取りというのは、一万五千円だ。一万五千円の中で、その人が裕福な家庭の生徒であつたらいい。その方はもらった給料というものは生活の主な柱をなすものだと思う。家庭については残った金というのは、自分の生活費には足りないことになります。

本人もそれだけのものでは生活できない。そういうことであるならば、いかに早く返した方がいいとはいっても現実に返せない問題に当面するのではないか。自分が食う方が先にないりかねないで返済することはできない。これはやはり自分が生活できて、その余りで返済するということがそこから出てこなければならぬと思う。だから私は理屈を言えは、早く返済した方がいい。そのことはわかります。

ただ私は具体的に現状の中から、そういう二万九百円というものの中から、千円というものが、本当に返済できるような形になるかどうか、ということを私は心配する。

従って課長さんも、こういう点を本当に高校卒で残らもらってその生活費が残るかある。

大学卒で残らもらって生活費が残るかあるということを考えて上で、三年というものを決定されたかどうか。再三申し

上げるようですが、やはりその根拠がはっきりしない。私は
こゝは不可能だろうと思う。

・福祉事務所長（池田亮山君）高校卒、もしくは大学卒業した
あとの生活費と返還金との関係でございすか。お説ま
ことにござつともございす。――カー困難は困難であつ
てもやはり借り入れたものでありますから、その期間に返
すように努めていただきたい。ただそう申し上げるよりな
いわけではございす。

確かに現在、給与体系とそれから返還金とを比較いた
しますとお説のような結果が出てくるわけではございす。
先ほどから市長からも申し上げておりますように、貸して、そ
うしてなるべく早い機会に回収し、そして、そうして回転率
と申しますか、要するに幅広く持つていくことも、また必
要なことだと思つています。そのように返還に努力を

なされるようにお願いしたいわけでございます。

ただ、十一條でも、返還や猶予とか、減免の条文もあるわけでございます。その事態に応じて、この条項を適切に生かしていく必要が生ずるのではないかということも予測されるわけでございます。

ニ番(中村省吾君) 私有質問にお答えがないわけにて、それはいいとして、一からは市長も課長も十一條のことをおっしゃったとおり、そういう場合に十一條の中に「その他やむを得ない事由」ということで、以上のような私が述べた点が考慮されると、解釈してよろしいわけですね。

市長(本間譲君) そういう場合のことも考えておるわけでございます。

ニ番(中村省吾君) そのならば、一応私は市長のいわんとするところはわかります。そこで、第十一條で重ねて申し上げ

まずけれども私は現在この制度の中で返済制度の中で
は、きわめて一般的な通念からいって返済が非常に困難
であろうということを再三申し上げたわけなんです。ところ
が、第一条でそういうこともわかるけれども、それは第十一
条で「その他をむを得ない事由により」云々の項が適用
されて、以上私が申し上げましたようなことも、ここで考慮す
るのだということば、もう一度重ねていいますけれども、か
ような償還方法までも、この中には含まれるのだというこ
とでよろしいわけですね。

・市長（本間譲君）結構です。

・二番（石井輝久君）福祉事務所長さんに二三お伺い申し上げます。
まず、第一にこの条例の主管が福祉事務所になった理由に
ついてお伺いします。

・福祉事務所長（池田亮山君）おそうく御質問の趣旨は育英

とか、奨学とかいうことで、こゝは教育関係の仕事であらうかと思うわけですが、ただし、こゝ場合に広義に解釈して考えて参りました場合に、いわゆる入学、そのもうではなく、いわゆる修学、もうとて、経済的理由等で修学を断念せざるを得ない子弟が相当数あるわけでございます。そこを福祉的な考え方で貸し付け金を出し付け、いわゆる修学、便をはかる。修学、機会を与え、ということ、福祉でよろうとするわけでございます。二番（石井輝久君）重ねて伺います。こゝ条例案、立案の過程で十二分に教育委員会事務当局側とお打ち合わせを、ある、か、もちろん、あると思ひますが、お伺ひいたします。

福祉事務所長（池田亮山君）実は、こゝ条例の起草に当りまして、こゝ御意見は伺っておりますが、直接、こゝ

糸例について、協議はいたっておりません。御意見は伺っております。

ニ番（石井輝久君）それでは第一条、学校教育法に規定する学校、この昭和二十二年法律第二十六号に規定する内容はどうか。お伺いいたします。

福祉事務所長（池田亮山君）学校教育法に学校、範囲がうたつてあるわけでございます。

この法律で学校とは、小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、盲学校、ろう学校、養護学校及び幼稚園、要するに、こゝでいう学校教育法に定められた学校に修学する者でということでございます。

ニ番（石井輝久君）ただいまの御説明でございしますが、それは昭和二十二年法律第二十六号の学校教育法を改正した規定ではなからうかと思つておりますが、改正の時点

とお伺い申し上げます。

議長(吉田勇治郎君) 午前、会議はこゝにて休憩といたします。
午後は一時会議を開きます。

午前十一時五十五分 休憩

午後一時 十五分 再開

議長(吉田勇治郎君) 午後の出席議員数、二十六名。

休憩前に引き会議を開きます。

二番議員に対する答弁を求めます。

補
社事務所長(池田亮山君) 答え申し上げます。

学校教育法による改正時点でございします。

昭和三十六年六月十七日法第百四十四号をもって改正され
ましてこの高等専門学校、制度が改正されてお

ります。

二番(石井輝久君)昭和三十六年六月十七日改正の学校教育法に高等専門学校が加えられたそうでございまして、引き続きまして、お伺い申し上げます。

高等学校のうち、全日制と定時制がございまして、これは学校教育法では分離をしておらず、一括して高等学校とされておるでございまいょうか。

・学校教育課長(猿藤一郎君)学校教育法第四十五条に高等学校とは全日制と定時制を含むと書いてありますので、高等学校の解釈は両方、解釈でさしつかえないと思います。

・二番(石井輝久君)わかりました。一番最初、この条例案の制定につきまいて、立案の過程で教育委員会と十分打ち合わせをしておるかということ。主管が福祉事務所になった

理由につきまゝてお伺いたんですが、十分な打ち合わせは
 なかったけれども、事務的にいろいろと意見を聞いたとい
 う御答弁がございまして、主管課より福祉事務所に
 向つて質問をしております。

学校教育課長さん御答弁で高等学校、全日制、定
 時制につきまゝではわかりました。引き続きまして、学校教育
 法の中に短大というものは含まれておられないものでございまし
 ろうか。含まれておるかどうか。お伺いいたします。

福祉事務所長（池田亮山君）別段、短大だとかいうふうに區別して
 ございせんから、同一とみなされると思ひます。

二番（石井輝久君）通常新制度の学制から参りますと、高
 等学校三年、大学四年、それから、ただいま御質問申
 し上げました短期大学というものは、本条創案の第四条
 第一号、二号、三号、これに含まれておらないので、御質問

申し上げておるんですが、短期大学は二年制でございます。従いまして資格の取得等に対しましてはなほだく大学と短期大学とは差異があるでございしますが、ただいま福祉事務所長さんの御答弁だと同一というのでございしますが、同一でございますかどうか、お伺いいたします。学制上、福祉事務所長（池田亮山君）先ほど答弁のように大学というも、ウ中に含まれて貸し付けをするという考え方でございします。

ニ番（石井輝久君）引き続きましてお伺いいたします。要するに第四条で第一号、二号、三号、高等学校、高等専門学校、大学というふうに明記してございます。

一か、第一条に「学校教育法に規定する学校に在学する者である」という規定がございします。

この学校教育法の中で大学と短大とは同一とみなして

おるでございまいようか。もう一度お伺いいたします。

・福祉事務所長（池田亮山君）教育法十九条の注釈に大学は四年、短期大学は二年、または三年、高等専門学校は云々というふうに学校教育法は分けておりますが、この条例でいっておりますのは、両方合わせて大学というふうに考えております。

・二番（石井輝久君）了解いたしました。そこで第四条の第三号、大学という先ほども四番議員に対する答弁ですと、三名程度ですか。大学と短大に進学する者、これを差別なく大学並に短大と解釈してよろしうございまいようか。

・福祉事務所長（池田亮山君）この場合に原則的に差別することは、好ましくないと考えます。

ただ、その場合でその前条にいうところの要件等を要す

るに審査委員会において審査する段階において問題でございまして、基本的には差別をつけないのがたてまえだ。かように考えます。

・二番（石井輝久君）引き続きまして伺いいたします。

第四系第一号高等学校の五名程度という高等学校でございしますが、全日制と定時制をいかにように区別するか、また区別しないものがあるか。

・福祉事務所長（池田亮山君）ただいまお答え申し上げましたように、その点も区別することは好ましくないと考えます。

なぜかと申しますと、いわゆる経済上の問題で進学できないものを救済する考え方からいけば、そういった対象のものをすべて一応申請を受けると申しますか、申請する資格のある者というふうに考えております。

・二番（石井輝久君）了解いたしました。高等学校に進学

する者というものは、定時制も全日制も原則として差別はない。ケースバイケースで、館山市奨学資金選考委員会の選考の議をまつというように了解してよろしいわけですね。それから同時に大学は短大を含んであるものであります。こゝように理解いたしまして、この点につきましては、打ち切りですが、第二項の高等専門学校でございしますが、これは高等学校と月額同額が三千円にいたしておる理由につきましても伺いたします。

福祉事務所長（池田亮山君）二、場合に普通、大学ですと、高等専門学校卒業以上でございます。

高等専門学校になると、中学校卒業業者が入るわけでございします。そういった関係で一応修学費、経費等を大づかみでございしますが、調査して見ますと、高等学校校程度と同等では、いろいろではないか。こゝう考え方を持ったわけで

ございます。この場合に細かいどう学校の場合はどう程度というあまり細かく規定する事も繁雜をきたすもとなるということ、一率に三千円を規定したわけでございます。二番（石井輝久君）ただいま御答弁了承いたしました。

引き続きましてもう一点御説明申し上げます。

午前中、質疑の中にもございました点に関連いたすところございますが、この条例案制定の過程におきまして、おそらく他市々例、或いは国、奨学資金、育英資金制度、また県の教育庁でござります育英資金、奨学資金制度を参考にいたしましたものと思われます。そこで、お伺い申し上げますが、今まで参考とせられまいにであろう、他市々例あるいは、県、文部省の例等からする奨学資金、育英資金の貸し付けに対する返済期限、最短のもの、どこでござい、という期間か、あるいは据え置き期間があるのか、な

いか。そういった点につきまゝてお伺い申し上げます。

福祉事務所長（池田亮山君）御承知のように、国々段階々育英資金等を見ますと償還期間は二十年でございます。

それから参考にいたしまゝた銚子あたりで見ますと借り受け期間々三倍程度、もしくは十五年という規定になつてゐるわけでございます。

ニ番（石井輝久君）ただいま御答弁でわかりました。国で二十年、その他におきまゝては九年乃至十五年程度ということでございます。一てみると、このように了解してよろしゅうございませうか。あまりにこだわるものではございませんが、本市の条例にうたつてある返済期限というものは他に例がない短期返済期間である。このように理解してよろしゅうございませうか。

福祉事務所長（池田亮山君）そのとおりでございます。

ニ番(石井輝久君)了解いたしました。私に質問はこれで打ち切ります。

ニ八番(望月照正君)市長さんにお伺いいたします。

先ほどからニ番議員さん、ニ〇番議員さん等からの質疑は、夜済の問題にしろうかと思ひます。これは高等学校の場合を考えますと、三年間、時間的問題もありますが、その間に給与問題、また資金の問題等々考えまするに、市長さんといひまゝでは、三年間のうちにもしそのような状態が発生したならば、条例を多少変更する御用意があるかないか、ちやうとお伺ひいたします。

市長(本間譲君)今の御質問でござりますが、また三年先のことではございませう。

現時点においては、こういうことでございと思ひますが、今、課長が調査したことを聞かれましたが、日本全国調べた

わけでございます。もっと短かいのがあるかもしれませんが、館山の現時点においては、こういう返済方法、一かー四年目になりますわ。その時点になりまして、市の経済の事情とか、篤志家の関係とかで相当の資金ができれば、その時点において、また、こゝをもつとゆるめていきたい。そういう考えでございますけれども、現時点におきましては、この条例でせむ、御了承を得たい。こういうわけでございます。

○三番（山田教宇君）市長さんにお伺いたいんですが、この条例は、私は賛成でございますが、こゝに関連しまして、現在東京に留学する子供、一番問題点は要するに東京に家がないということ、こゝから留学することは大へんだ。

ことに貧困家庭の進学が困難ですが、私が考えておるは、こういうことで救済するの、非常によいことで、むしろ

遅きに失するという事で大いに悩んでいたと思いますが、
が、これに関連して、市で将来、東京の近くに市営公営
の子供を収容する寮を作ることとを考えておるものであります。
果でもおつておりますが、果う貧弱な施設では、ああいう施
設に入つておくわけにはいきません。広域行政という考えで
その中でやつていくのも結構ですが、こういうことに重点を置いて
作つてあげるといふことがないと、貧困家庭の子供が今後進
学していくことは困難だと思ひますので、こういう非常にいい
糸割ができたわけでございします。これに関連して、
将来、市長さんがこれに対してどう考えられますか。一つそ
ういう点を考慮されて、果に働きかけるなり、市独自で
できれば、こんなにいふことはないんですが、その点を一つお
伺ひいたしたいと思ひます。

・市長(本間譲君) この制度を執行していく過程におきまし

ていろいろ検討してあげり経済的の問題も多いわけでございますが、私は山田さんのお考えのように将来は、
もっていきたい。こういうふうに考えております。

一三番（山田教字君）了解いたしました。

一八番（安西益男君）この借用書の提出ということについてお伺
いしたいと思ひます。

「借用証書を市長に提出しなければならぬ」ということであ
りまして借用証書には保証人、連帯保証人とか保証人の資
格、そういったものが、定められておるかということとをまず、

最初にお伺いしたいと思ひます。

福祉事務所長（池田亮山君）借用証書を提出していただくことは
常識上、当然だと思ひますが、そこに対する保証人でござ
います。これは規則にゆずっておりますが、当然返済の責
任に任ずる方がある人を二名程度保証人としてつけていた

だきたいというふうに考えております。

一八番(安西益男君)保証人の資格というものは大体きめられておるかというところでございしますが、

福祉事務所長(池田亮山君)その点につきましては規則で規定いたしたい。かように考えます。

二八番(安西益男君)先ほどからも、返還については大へん論議もなされております。ですけれども、まだ私といたしましては、明確といまいようか。そういった結論的なものがつかめておらぬというところで、お伺いしたいと思ひますが、常に市長は、慎重審議を期してということでありまして、もう一ぺんこの点についてお伺いしたいと思ひます。これはどう考えても大学の場合におきましては、全然無理だということだけは、いえると思ひます。

従つて国或いは県また、他市等の例を見ましても、まず

十年・十五年・育英資金については、ほとんど長期にわたつておるといふことはあらゆる観点から検討を加えて、全般的な条件等を考え、それから期間的な問題というものが、長期にわたつておるのではないか、ということはもちろん考えていかねければならぬと思うんです。

加えてまた最近には、他の都市等におきまゝでは、高等学校或いは大学等の入学準備金、そういう制度までなされてきておる。こういうことが実情だと思ふわけです。

これは市の財政面からなかなかそういう面にはすぐいかな

い。　　こういう先ほども、市長さんのお話もごういまだが、やはりこと教育の問題でありますし、また加えて、これからもうこういう制度というものは、全般的に各市で樹立していくことは、当然だと思いますが、財政面という点におきますと、慎重を期していかねばならぬ。

ニおはうちほど御質問申し上げたいと思つてゐるわけでございますが、市長の専用車という点等におきましても、ちほどお伺いしたいと思つております。市々予算全般から見まして、この教育に関する比重が極めて今後は大きくなつていくであらうし、また常にやはり市長さんが教育には力を入れておられるという点等から考えてみまうと、ときに非常にニおは過酷な返済に対する条件といひまうのか、そういったふうにか考えらぬない。

六月でいたか、リロ市から資料を取り寄せて見たわけでございますが、リロ市等に見ますと大体一年間据え置き、その後十年間において返済、こういうことで実施されておる。少なくとも卒業と同時にすぐ返済していかなければならぬ。こういうことは、実際に当たつて見まうと、なかなか困難な面が出てくるのではないか。こういうふうにか

おりますので、いよいよ、こゝはあらゆる面を再検討さ
いて一挙据え置き、或いは期間等には検討の余地が
あろうかと思ひますが、お考えをお聞かせ願ひたい。

・市長（本間譲君）と西さんのお話は一応、ごもつとまでござ
います。現時点においては、このことで是非願ひ
たいと思ひますが、あまり延ばすということは、えーい
ようですけれども、また、反面には、こゝに金を延ばすとい
うことは悪い影響の方が多いのではないんですか。借りたんだから
早く~~貸~~返してもうかういうことが基本的ではないかと思ひます。
延ばすのがいいということではないと思ひます。

また、さうき申し上げましたように、緩和できるようになれば、御相談
して、いきたいと思います。二十年も貸しておるともつたやうな
気分になつたり、返せなくなつたり、早く返すという気持で
いる方が本當でしよう。無利息で貸すんですから、私は、

そう思いますけれども、もう少し緩和できるような事情に
なればその時点において御相談して緩和した方がいいと
思います。

ーカー二十年も十五年もということはどうかと思えますね。
やはり貸したん^ですから、それを承知の上で借りていくんで
すから、優先して返済するということがいいと思いま
すね。

・八番(安西益男君)二十年ということは一応例でありまして、必
ずしもそういうことでなく、やはりそういう借りの人たちが
立場ということが主体であろう。

こちらが都合ということではなく、そういう人たちが切実な立
場、いうならばそういう人たちが本当にそのことによつて新た
な苦勞を以ていかたければならぬという面が非常に心配
されるということから、お伺いたわけてありますので、また、これは

その過程におきまして十分検討をいたしまして、そういった実情等
をいろいろの面から検討に検討をいたしまして、そういった人たちが
本当に恩恵に浴びて人材として立っていくように十分御検
討いただきたいと思っております。

・二大番(秋山大三郎君) 私は十二条について質問というより、こ
条より文字の違ひではないかと考えるので、もし違ひであり
ましたら訂正していただくことがよろしいと考えるものです。
といいますのは、一番終りの方「返還」の猶予の申請があ
ったときは、その可否を決定し、その旨を申請書に通知
し「なければならぬ」となっておりますが、これは「申請者
ではないかと思っております。その点」。

・福祉事務所長(池田亮山君) はなはだ申しわけございません
ミスプリントでございます。確かにそうとおりでございます。
「者」でございます。御訂正いただきたいと思っております。

・一九番(島野茂樹郎君)一つだけ伺いをいたします。

貸し付け制度ができ、まことに喜ばしいことだと思ふわけですが、
二番条例で貸し付け制度ができるんですけれども、貸し付け
のもとなる基金は一体どうなっておるのだということが、この条
例には一つもうたわけてない。たとえば、奨学資金や基金
というんですか、そういう基金をどういうふうにとこから持て
きてというふうな、そういう基金条例とでもいいますか、そう
いうものがないと、これは宙に浮いてゐるわけですが、そうい
う基金条例とでもいった方がいいかもしれません。そういつ
たものとつ関連は、どういうふうにお考えになつておるか。

・福祉事務所長(池田亮山君)実は御意見見方ように本来な
らば当然これと一緒に基金条例を作つて一緒に御審
議願うのが正しいことだと思ふのであります。

実は基金条例も目下草案中でございます。と申し

ますのは、予前中の御質問で、お答えになりましたように、現在受けております、これに充てべき資金が百万円いたただいてあるわけでございます。

それと合わせまして、市長からお話—申し上げましたように、運営でできる範囲の基金というものを含めまして、その基金条例を作予、その基金条例の中でこれに充てるんだ、という基金条例の方に、その基金条例は、この条例の発足するまでには、当然御審議をいただかなければならない条例でございます。これから、寄付金とか、そういったものを合わせまして、ばらぐ基金としては、あとまわしに今考えております。

基金の内容でございす。一定の額を基金総額として、きめて別々に一般会計からはずしまして、基金を作り、そこから貸しただけ、そこに返還していくんだという形を取る。

そうしてその基金から一時預金と申しますか。そういった利息につきまゝでは一般会計にですから基金というものは貸し付け金と保有現金と合わせますと基金総額と合うということに現在考えております。

○九番(島野茂樹郎君)わかりました。少々とも一諸に於いてもらうと非常によかつたのではないかというふうに考えるわけですが、これはもうすでに市長さんの答弁の中でもはつきりしております。たかういんですか、私ども試算をして見た場合に大体七年目になつても五人と三人ならば百七十万、二百万足らず、あればいいという勘定になるわけですが、やはり寄付ばかりではなしに一般会計あたりから、これから予算総額も相当ふえるし結局十億以上に本年入つておるんですが、その中が百七十万、二百万足らずということになります。パーセンテージは非常に低いものですから、確

か、二百万まで必要ないはずで、百七十万ぐらいで、高等学校五人、大学生三人、私り計算が違つておれば、なんですが、少くともそれくらい、基金は、考えようによつては、年々一般会計から出つて、いっても、そう大きな額では、ないというふうに考えらるわけですが、私がいつたいのは、寄付金ということに、あまり力を入れないで、むしろ一般会計あたりから考えても、さっきも二〇番議員から、いま、たまたま競輪収入あたりから入る。これがやはり基金条例の中では、つきりして、いたゞいて、なるべく、今は五人と三人ということ、ううでございます。が、場合によつては、もうとワケが広げらるような方法を、将来考えて、いかなければならぬではないか、というふうに考えますが、一応要望いたしまして、質問を終ります。

議長（吉田勇治郎君）他に御質疑ございせんか。——御質疑

なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって本案

は原案通り可決されました。

日程第七 議案第百十一号を議題といたします。

暫時休憩いたします。

午後一時五十分

休憩

午後二時 二十分

再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

御質疑を求めます。

三番(鳴田石蔵君)に身障害児に対する助成ということば、まことに暖かい条例であつて好ましいものだと思われまゝです。でありますから私はこの条例に賛意を表したいと思います。ますが、二、三お尋ねたいと思います。お答え願ひたいと思います。こゝお答えは、福祉事務所長があるいは教育委員会か、いづれでもよろしうございますから、わかつたところからお答え願ひたいと思います。

今こゝ条例にあてはまるやうな児童生徒は全国的に見て全体で生徒、児童数からして、何%ぐらゐになつておるのか、

常識でございしますが、最初にそれを一つお尋ねいたします。
そうして、そうであるならば、そのパーセントからすれば、市は何
人ぐらいになるか。そして、実際に特殊学級等における児童、
生徒の数は、何人ぐらいであるか。この三つを最初にお尋
ねいたします。

・福祉事務所長（池田亮山君）第一点につきまゝでは、遺憾なが
ら、資料を持ちませんので、教育委員会の方でお願い
します。

第二点、館山市立ということでございします。私も調
査いたしました。が、小学校の児童が精薄六十人、言
語障害三十二、合計九十八人。中学校で精薄関係で特
殊学級に入っております者が、三十二名。合計いたしまし
て、小中学校百三十人という数字を出しております。

そうして、この条例の適用を受ける者、約四〇％である。

調査は完全にしておりませんが、四々％見当ではないだろうが、従ってこの条列り適用を受ける者は小学校で四十名、中学校で十三名程度、合計五十三名程度がこの条列りの適用を受ける人員ではなからうか。一応さうに推定しております。

・学校教育課長（遠藤一郎君）大体一・八％、一・六から一・八％前後が該当すると思います。

・三番（嶋田石蔵君）そういったしますと、実際に特殊学級に入つてこの教育を受けている子供と、実際は大体全国的なパーセントから見ても受けるべきであるけれども、受けてないというところが予想されるころの比率をお伺いしたいと思います。

・学校教育課長（遠藤一郎君）比率、点についてはあつてすが、館山市内においては、福祉事務所長から訪が

ありまして以外に小學校では約五十人、中學校においては六十人ぐらいの生徒が一応候補者として上っております。

三番(鳴田石蔵君) この条例の適用の経済的理由というのは、前々経済的理由と同じ標準をいっておるのかどうか、お尋ねいたします。

福祉事務所長(池田亮山君) この場合、考えておりますのは、市民税等、均等割以下を納めている家庭の児童、生徒を一応考えております。

三番(鳴田石蔵君) そうしますと、奨学資金よりもっと上るわけですね。そういたしますと、奨学資金の場合は、人数が高等學校五人とか、大學三人とか、予算の関係で人数の制限がありまして、この点については、予算という点から見て、この条例に該当する人数の制限が加えらるのかどうか、お伺いいたします。

福祉事務所長(池田亮山君)ただいま基準に該当する場合、こゝはもちろん、審査委員会、七十九号議案で申し上げましたように、委員会にかけまして、この場合も決定するわけでございます。こゝに該当する場合に制限は加えないというふうに考えております。

三番(嶋田石蔵君)わかりました。市長さんにお伺いいたしますが、こゝから財源について、前々特大学資金のように特殊な寄付を主としたものを財源にする考えですか。この条例は、一般財源、市、教育予算のようなものでお扱いはなるんですか。その点お尋ねいたします。

市長(本間讓君)こゝはやはり、特大学資金という名目でいたたいて、この学校に入っておる人をやるんですから、その意味から、その中からやる。その中から、こゝも含んでもとにいます。

三番(嶋田石蔵君)わかりました。なお、この条文の用語でござい

ますが、この学校に通う「通級」という言葉を使っておりますけれども、こういう用語の慣例があつてお使いになつておるのか、私疑問を持ておるやうで、各学校に特殊学級というものを設けて一つの学校で校長のもとに一年は、一学級、二学級、三学級、いろいろあつて、一学級だけ特殊学級を充てるかどうか知りませんが、番号順に十五学級とか十八学級とかに充てるか、実際わかりませんけれども、この通級という言葉は、私は通学ということではないかというように感ずるんですが、その点いずれでもいいかと思ひますが、ちよつと疑問に思ひますので、お伺ひいたします。

・福祉事務所長（池田亮山君）学校については、はなはだくらいいもので、通級、通学、いづれが正しいか判断し、かわるわけではございません。ただ、ここで通級という言葉を使いよつたわけだ、たとえばばかり小学校から、北条小学校の学級に通級して

いる者があるというふうに聞いております。それを通級という言葉を使ったわけでございます。他意はございません。

・三番（鳴田石蔵君）用語については、大に問題はございません。ご了承いたしました。

なお、今伺ったところによりますと、特殊学級で学習をうけるければいけないけれども、そういう施設がない学校は、そういうものに該当する者であっても入っていないわけであり、むしろ、なお、この条例に示されておるものは、特殊学級のあるところは、その条例にあてはまるけれども、ないところは、そういう者であっても、省かれています。ということが考えられます。なお、特殊学級が設けられておるところは、その地域の子供たちは、大へん、そういう教育の便益を受けておるし、学級増もあるから、職員増もある。

こういうふうなことに相なると思います。そういう観点から、
いたしますと、市がこういう条例を制定さるるにおいては、
およそ市内における各学校にこれに該当するような
特殊学級というものを作って収容するということが、義
務教育においては、大切だとこの条例を見て思ったわけで
ございますが、この点には市が前向きにこういう条例
を作る以上は、この点は大きな課題だということを感じ
ておるので、この点を希望して私、質問を終わります。

一丸番（島野茂樹郎君）三条、二項ですが、法令に定めあ
るものばかり、必要に応じて助成することができるしとあり
ます。法令に定めあるものは、というのは、どういうふう
に定められて、どういうものが、助成の対象になつてゐるの
か、これを一つ教えていただきたいと思います。

三条の二号ですか。「盲学校、ろう学校、及び養護学

校に在學する者」こは盲學校、ろう學校等は、
館山市内には、いわゆる市立、學校としてはいないわけ
です。県立というのがあると思いますが、私ども、こういう
ことをよく知りませんものですから、間違つたら失礼ですが、
こゝらに通學しておる人たちが、経済的な負担が相当大
きいのではないかと考えるわけですが、一人の生徒、児童
ですか、盲學校、ろう學校等にゐた場合に、父兄の
経済的負担は幾らぐらいである。おわかりになります。
たら、教えて、いただきたいと思ひます。

三条の小学校、四百円、中学校、七百元、こゝ計算の
基礎といひますか、たとえば、奨學資金、貸し付け条
例の中では、高等學校、或いは大學、學資に相当
するものというふうに判断できるわけですが、四百円、
七百元は、一体、どういふものを基準に、こゝいう数字が

決定をされたのか。いわば算出根拠といえますか。そういうものをお聞かせをいただきたいと思います。というわけです。

・福祉事務所長（池田亮山君）まず、第一点、他の法令に定めあるもののほか」ということでございますが、他の法令と申しますと、児童福祉法によります。身体障害者の場合の保護規定がございます。それから、生活保護法の適用によってある内容があるわけでございます。この場合の児童生徒に対する場合、考えておりますのは、それ以下と申しますか、それより程度がいい者、ただいま申し上げましたような法律では救済されない者があるわけですが、たとえば、言語障害児のような場合で一定の器具を挿入いたしまして、そうして発音を可能にするという場合もございますので、ほかの法令では適用されない、そういう場合も含むことをここでは考えておるわけでございます。

第二点、ろう学校、盲学校等に通学する場合の経費負担でございますが、なかなか測定には困難でございます。ただ、特殊学級でも言わゆることでござい
ます。教材費と申しますか、そういったものが一般
とは別にかかるわけでございます。それ、若干、めんどう
を見ていきたい。特殊学級につきまては、教材費が
小学校で五百四十円かかる。中学校では、一千円程度
かかるという話を聞いております。

ただちに文、兄、負担となるかどうかは別問題とい
て、要するに普通、教育を受ける。義務教育
を受ける児童よりも、それだけの経費がかかっているわけ
でございます。

先ほど三番議員さんの御質問で、こういった学校に他
り、学校から、通級する場合、通学費、そういったもの

見てゐなければならぬと思つてゐます。そういつた
ものも考慮して一応小学校四百円、中学校を七百円という
数字をあげたわけでございます。

○九番(島野茂樹郎君) どうもよくわかりないんですが、聞きますな
かったんですが、どうも学校ですか、これは一体教育委員会
の方では大体、父兄が一カ月どくらい負担してゐるか、おわ
かりになりまいたら、それから先ほど法令に定めるもの
ほかにそれ以上のものが、必要だというふうな場合に出す
んだということですが、それは、どういう器具があるか私
もわかりませんが、そういう補装具、治療費、移送費
これは必要に依つてということですから、当然今後設
置をする委員会の中で、討議をされると思つてゐます。
予定としては、そういうふうな器具等、どの程度を負担
をなさるおつもりなかが、これをもう一度お聞かせをいた

だきたいと思っています。

・福祉事務所長（池田亮山君）補装具等々補助額でござい
すが、今うところ、何割給付をするという確定的な考えを
をまだ持っておりません。なぜかと申しますと、いろいろ聞いて
みますと、ここに非常に差異があるやだそうです。

その人によって、六万円かかる人があるし、あるいは五万円で過
ぎる人もある。あるいは八万円かかる人もある。そうしますと
一率に何%を交付するというところで果たしていかどうかと
いうことが検討課題でございます。

なぜかと申しますと、お医者さんに通う場合や怪費だと
か、いっぺんで税金にできる場合があるし、二へんも、三
へんも、やらなければならぬという状態があるそうです。
いずれにいたしましても、この問題は、将来の問題と
して検討すべき必要があることは、確かでございます。

そういった問題につきまゝでは、審査委員会と特に相談の上
で一つ線を出してそれで執行していきたい。かように考えてお
ります。

。教育委員会庶務課長（千場伊右門君）調べたものをここに
資料を持ってないで、はっきりわからないんですが、大体
のことを申し上げたいと思います。が、ろう学校、こは、果
て関係でございます。で、三階級に分かれるようござい
ます。それは生活程度本人の収入と需要額との関係を調査して
それを三段階に分ける。一番低いものというものが、大体収入が
需要額より一・五倍になるものが、こは一番低いのだ。それで
ございます。それと中と。それから一番高いものは収入が需
要額より二倍半になるものは、こは補助がないということ
で三つに分かれておるようございします。

そうして月一千万ぐらいものを保護者が出ておると

間三万六千円かを果が補助するという事でございます。
 それから、宿舍に入っておる人で大体年間九万の補助が果
 からある。あとは小使の程度一万二千円ぐらいのものを足
 リたいかと、そういうものを本人が持つ。あと忘れまーたか
 大体、その程度でございます。だから一番生活のいい者、
 大体四万二千円ぐらいのものは全部、父兄が持つて果から
 補助がないというふうになっておるようでございます。

一九番(島野茂樹郎君)私ども考えますのに、いろいろ果が補助
 等が多くても、ろう学校、あるいは盲学校等にゐてゐる
 人たちは、相当収入等もある家庭でないと、これにゐない
 ではないか。たとえば、こういうところにゐてゐる人たちが、均等
 割納付者以下の人もあるかということですが、

その初めはつきりさせたいと思うわけですが、くだいていいますと、
 均等割以下の人、すなわち、この条例の適用をさへる者ども

やはり、ろう学校と盲学校にやっている人があるかという、
そういうところを確認したいわけですね。

・福祉事務所長（池田亮山君）お説のように現段階でこういったろう
学校等に入っておる児童の中には、均等割以下の人というの
は見当らないようにございます。

ーかー、将来の問題を考えますと、その道を開いておくのも
また必要であらうかということでございます。

・九番（島野茂樹郎君）わかりました。結局現在うところは、二
二条と二号にある「盲学校、ろう学校及び養護学校に
在学する者」というのは、経済的理由という三号によって
この条例の適用を受ける者はいないということになるわけ
ですね。わかりました。

それからもう一つ、私がいいたいのは、たとえば、四百円、七百円と
いう、これは奨学資金のように返せということが書いて

ありませんから、くわつぱなしということになるのではないかと
 思います。が、その場合に均等割以下、いわば所得が
 低い人たちの父兄、或いは親権者、後見人に、こゝを支
 付して、どの程度の助成の効果といたしますか。そういうも
 が、上るかどうかというところに若干の疑問がある。また、こゝは支
 出のしっぱなしという金であるならば、学校の予算といいま
 すか。特殊学級や予算、といいますが、そういうものをふや
 そうという措置の方が私は効果的だと思ふんですが、その点
 はどういうふうにお考えですか。

・福祉事務所長（池田亮山君）好ましい姿とすれば、学校予算
 をふやすことが一番好ましい姿だとも考えるわけでござい
 ます。ただ、こゝ金を貸し付け金から出すという、いわゆ
 る福祉行政として行なう場合には、相当の高額の子
 弟と比較所得が少くない子弟同一に福祉行政として出す

ことにも疑問があるわけでございます。福祉行政として行なう場合にはあくまでも所得の少ない下の方の人たちに出すということになりますと、世帯或いは親権者に出すということが条例のたてまえ、根本的な考え方になってくるわけでございます。というわけでこの条例を制定しようというわけでございます。

○九番(島野茂樹郎君)大体わかりました。ただ先ほどの説明によりますと、この条例が適用になるのが、約五十三名ぐらいになるであろう。これは相当大きな額になるように見受けられます。年間約三十万ぐらいになるだろうと思います。そうしますと、この基金との関係になってくるわけですが、これはそれと区別して二ない金だし、そのほか補装具治療費というところまで入っていくと、もう少し額が多くなる。

従つてやはり基金は奨学資金のみにとめてむしろ、これは中学校費、或いは小学校費の増額という面で考えるべきものだというふうに考えます。ただ、福祉事務所長の福祉行政の面からというふうなお話もありましたから、私は一応そういうふうな考えもできるなということを申し述べて質問は終わります。

二番(中村省吾君) 関連いたしまして御質問いたいたしたいと思います。ただいま一九番議員の質問の中にもございましてたけいども、この四百円乃至五百円を第七条にありまして親権者、または後見人に交付するということになつておるわけでございます。ところで本条例が心身障害児のいわゆる特殊学級に運営上、こういう金が交付されるということは担任される教師にとっては非常にありがたいことだと思ふんです。家庭は申すに及ばず一番喜ばれる

が担当の先生であらうと思います。それほど特殊学級の運営というものは御苦労が多いと思う。

そこで私ちょっと聞きましたところによりますと、船形小学校の特
殊学級で見童数が十七か十八だったと思います。そのうち
聞きますところによりますと、生活保護法を受けている児
童数が八割、八割五分でしたか、那右が七名、うち五割
こいが生活保護を受けておる。あとところは調べがついて
おりませんが、船形と那右だけ取り上げてもそういう大きな
比率を~~ある~~ある。生活保護を受けておるという実態がある。
その中で生活保護を受けておるという生活費の中に、実
は、教育費が一部含まれておる。その教育費というものを
どのような形で交付されているか。こは教育委員会
の方から実態を御答弁願いたいと思います。

教育委員会庶務課長(平場伊左エ門君) 私の方で特殊学

級という事でなくて、準要保護児童というのがあるわけでございますが、このものに対しては、それぞれ各学校から申請があったものを教育委員会で認定して、そうしてその人にいろいろな学習費とか、学用品費とか、修学旅行費とか、給食費とか、そういうものを必ずわけてございます。一応認定して年度の始めにおいて、各保護者から学校長あてに委任状を取りまいて、それを教育委員会の方に書いてもらう。

そうして、実際に金を出す場合には、学校長あてに、市の方から出しまして、そうして、学校長が学用品とか、そういうものを買って与える。

それから、給食費については、一応父兄がたてかえておきまして、そうしてあとでその金を保護者に返すという方法を取っております。

ニッ番(中村省吾君)大体、私もそのように聞いておったわけですが
としますと、生活保護を受けておる一部の教育費という
ものでも学校側で委任を受けてもらっておるという、そう実
態、一体、何であるかということを分析してみますと、また
聞いてみますと、生活保護を受けるような家庭でございま
すから、その教育費を後見人なり、親権者に渡しますと、
今度学校で入用の場合に、そういう費用として渡して
も、それが役立たない。そういう家庭が非常に多いのだ
という、ことを担当の先生は口をそろえていっております。
従いまして、それは校長なりに一括して委任して渡して
いただく、その中から必要なものを買って与えるという
方が、効果的、適切なんだということから、生活保護費
の問題は、かように処理されていっている、と思つてわけです。
そこで、本条例もきわめて、こういう心身障害児の育

成については着眼としてはよろいゝであります。今、申し上げましたように後見人に渡りて、今、申し上げましたような問題が起らないか、ということ。これは生活保護費や教育費の問題と同トことがいえると思う。船形においても八割五分が生活保護を受けておる。

那古においても五割だ。そうすると対象の家庭は同じだ。それを後見人なり親たちに渡りて障害がないかどうか。

。福祉事務所長（池田亮山君）ただいま御質問の問題につきまゝは、私たちも検討したわけでございます。ところが条例のこの条文から参りますと、ここにあります。渡すたてまえを取るゝが正しいわけでございます。

そこで規則等によりまして委任の形でただいま御発言いただきまして、たゞ形を取るゝことが可能であると私たちは考えて、かような取り扱ひという考え方を持っております。

わけでございます。

二番(中村省吾君)了解いたしました。ぜひとも、そのような措置が必要であろうと思わします。で、御検討の上、そのようにお願いしたいと思います。

付け加えますと、担任の先生に聞いてみますと、その点は、口をそろえて「せっかくいい条例を作っていたとしても、私たちが困るんです。」ということとを、全学校の担任の先生がいていっぺん、そういう現場の声を取まけて、そういう措置を是非取っていただきたいと思ひます。

なお、心身障害児の問題で関連して触れますと、この条例が出て、幾分なりとも特殊学級や療育というものがプラスになることは事実でございます。市長さんがPTAや父兄負担軽減ということを非常に強く叫ばれておる。ところが、現実や姿や特殊学級をみますと、大体PTAから負

担っている額がかなりあるわけですが、

詳細に申し上げてもいいんですが、とにかく各学校とも
PTAから特殊学級に対する補助をしてない学校は、
おそらく館山市内では私に知ってる範囲では三校だけ
しかない。あとは全部PTAから補助してある。揮
毫についてでございます。実態があるわけでございます。
従って先ほど一九番議員も申しましたけれども、今
後いろいろ問題につきましても、学級費として増額を
せむともしなければ、完全な揮毫ができない。せつかく
条例まで作って特殊教育の強化をはかろうという
御趣旨でございます。PTAから負担をさせ
なければ、揮毫できないという。これは現実をただちに
是正していただきたいと思うわけですが、

これは詳細は担当の方でその実態をお調べになれば

わかる。なお担当の先生方が各学校、先生方が一人当り
これだけはいったという額もおそらく資料を取ってお
られると思います。これは平均にして一人当り六、七、百円
のものが多いというのを口をそろえていっております。
そういうことも御参考になつてせうかくいい条例を着
眼されたわけでございますから、実のある特殊学級教育
ということを實現さうしていただきたいということを希望
いたします。私の質問を打ち切ります。

議長（吉田勇治郎君）他に御質疑ございませんか。御質疑
なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）御異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって本

案は原案通り可決されました。

日程第八議案第七十二号を議題といたします。

暫時休憩いたします。

午後 三時 三分

休憩

午後 三時 三十二分

再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第七十二号につき御質疑を求めます。

九番(三幣勇君)一点お伺いいたします。

館山市奨学資金貸し付け選考委員会というものは下に書いてあるようにその選考を行ない、審議し市長に答申すること。こういうふうに出ています。が、現在まで条例について討議されておきまして、返還の期間の延長、それが本人の生活にまで関連すると思ひますが、この大きな役割とする選考委員会の人数や構成基準はどういうところから出たのか。三人とか二人とか、四人とかなっておりますが、その点についてお伺ひいたします。

・福祉事務所長（池田亮山君）各職種と申しますか、それについて、基準というものは別に特定し考え方を持ったわけではございません。ただ、議員さんから、三人、教育関係者から四人というふうになりまして、この審査に当って内容について一番熟視されておられる教育関係者を四人、議会議員さん方から三人、知識経験者から三人、

社会福祉事業関係者から二人ということで各職種の
つり合いというものは別に考慮はしてございません。

ただ、重要度といえますか。内容を審査する上で重要度
の高い教育関係者の方から、この定数については、
別に基準もございませんということでございます。

九番（三幣勇君）（このよう）重要な役割を持つ委員会です
から、別に基準がなければ、今、所長さんの御答弁で結
構ですが、知識経験者の中にでも、PTA或いは文系
そういったものを入る考えがどうか。その点。

福祉事務所長（池田亮山君）適当な方があれば、それも当然に
考えてよろしいのではなからうかと考えます。

二八番（望月照正君）先ほど七十一号、議案の中にもあり
まいたけれども、助役さんにお聞きしたいんですが、先ほどから、

二番議員さんがいっておるように、この条例は教育委員会が

福祉事務所の方か、どちらが主管するの。福祉事務所の方が主管するならば、どのような理由で主管したのか。もう一ぺん答弁願います。

助役(畠山伝君)お答えいたします。先ほども、福祉事務所長から御説明がありましたように、まあ、この金を基金の方から出すというところから、福祉関係を主と考えまして、福祉の方で担当に考えたわけです。

二八番(望月照正君)今、私聞きましたのは、池田課長さんの方で、内容審査に非常に重要度が高い、だから、教育関係四名、社会福祉事業関係二名だということですが、先ほどから答弁を聞いておりますと、社会福祉関係と教育関係が逆の数でもさかろうように聞きますが、その点いかがですか。

福祉事務所長(池田亮山君)一応、そういうことも考えらる

わけでございます。

学校数も相当あるし、そういつたことを考え合わせまして、学校の校長さんも、この選考の範囲に入れる方たちだろうと思います。あるいは教育委員会の職員もそれに該当するのではないだろうかと思うわけです。ですから、該当させるかどうかという内容の審査の重要度が、教育関係者の意見を求める必要があるということから、四名といたわけでございます。

二八番(望月照正君) 今、答弁まことに結構なんですが、先ほども児童の選考のために教育関係者が多いというよりも、主体性は、社会福祉の方だ、ということでは、構成メンバーも今の話を聞きますと、これといえませんが、ないような人数だと思っておりますが、どうぞこの実施に当りまして、福祉事業の方が、主管になっておけば

また、順次、審査会を様子によりまして、定数をふやすのも結構だと思えますから、その点何かありまうたら、適当に委員会、構成メンバーをお考えいただきたいと思います。

終ります。

二九番（島野茂樹郎君）一つだけ、第二条、別表の中で民生委員推薦の薦会、或いは、選挙管理委員補充員、二小が新たに追加することなんです。民生委員推薦の会あるいは、選挙管理委員補充員、こういうものが、設置をさる基礎条例というんですか、そういうものを教えていただきたいと思えます。こゝ二つについてお願いしたい。

。福祉事務所長（池田亮山君）民生委員の推薦会が委員でございまして、こゝは、民生委員を置かなければならないことに規定されておるわけでございます。そうして、その定数は、その市町村で定数をきめることになっております。

ただし、項目は七項目ございまして、その中で右一名あ
てか、二名あてかということでございます。

いずれにしましても七項目の中かう、市町村で定めなければ
ならないということになっておりまして、館山市も従来、そ
うに行なつてきていたわけでございますが、規則が制定
されてはなかつたわけでございます。

今度新たに定数等の規則を制定いたしました関係上
当然また支払わなければならぬ報酬等の問題があ
てくるわけでございます。

現実の問題を申し上げますと、従来は選挙委員にはど
ういうわけか報酬の規定がなかつたわけでございます。

今度新たに規則で定めた定数による委員の報酬を支
払うということに改めたわけでございます。

選挙管理委員会書記長（鈴木カ君）別表第二号表に選挙

管理委員補充員を新たに加えたことにつきましてお答えいたします。

地方自治法が規定百八十二条でございますが、現在選挙管理委員会に選挙管理委員の定数四名を置くことになっておるわけでございます。

その選挙管理委員の定数四名と同数、補充員を置くことが地方自治法に規定されておるわけでございます。

この補充員の選任につきましては、御承知のとおり、選挙管理委員に欠員を生じたときにおいて、補充員の中から先順位のものを選択することになっておるわけでございます。

なおこのほか、選挙管理委員の委員会が会議を開く際に委員に事故がございまして、場合におきまして出席委任をするか、三名に満たない場合におきましては、臨時に補充員を委員に充てまして、会議を開くということができます。

ることが規定されておるわけでございます。

たまたま、最近におきましてそういう実例がございまして、で、補充員を補充して会議を開いた例があるわけでございます。一か一かから報酬規定というものが全くございまして、関係上、今回新たに条例に規定しよう。こういう趣旨でございます。

一九番(鳥野茂樹郎君)規則によつて、これが設置されておるということはわかりました。ただ、その場合に附属機関の設置条例との関係で附属機関ではないということになるわけですか。それについて、

民生委員の推薦会の方ですが、これはどういふことになりまするか。

福祉事務所長(池田亮山君)附属機関でございます。地方自治法にもそのように規定してあるわけでございます。

をきめたわけでございます。それを地方自治法にいう附属機関、置かなければならない機関として、民生委員法を受け、民生委員推薦会を置かなければならないということでございます。

一九番(島野茂樹郎君) 第一条の附属機関設置条例との関連を私お聞きしているつもりなんです。附属機関設置条例の中には特にそれは入っていないわけですから、附属機関として設置条例の中に入っていないけれども、報酬だけ出す。これが条例で定める。その初め関係がちょっとわからないものですから。

人事課長(小沢正治君) ただいま御質問は改正条例の題目が「館山市附属機関設置条例等」の一部を改正する条例」ということで、附属機関の設置条例の改正、その中にこちらが入っておるということで、その関係を

お尋ねのことだと思ひます。

こゝは標題にございますように、館山市附属機関設置条例の一部改正ではなくて、「館山市附属機関等」の一部改正でございます。二つ、三つ条例をここで改正するうだといふ意味でございます。従ひまして、第一条では、「館山市の附属機関設置条例」の一部改正でございます。けれども第二条は、「非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例」の一部改正でございます。従ひまして、一条の改正関係と二条の關係とは、全然別個の条例の改正であるといふことでございます。

一条では、ここで示してございますように、附属機関を新たにふるす。そうして、そのもろの職務を構成委員の内容を任期を付け加えるわけですが、第二条では、非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁

償に關する条例の中に、この三つは職種の委員の費用
并償の關係を付け加えるという全然別個の条例の改
正案でございます。

二九番(島野茂樹郎君)それはわかっているんですよ。ただ私、
附屬機關設置条例を見たところが民生委員の推薦会
というものがあってない。だから、その民生委員推薦会とい
うのは、何の法律に基づいて条例なりに基づいて適用
しているんだ。こう聞いたわけです。

そういうときに規則で作られているんだというお話ですけ
れども、その中でわからないわけではないんですけれども、
一、附屬機關設置条例の關係で附屬機關と
して設置されていらないに、民生委員推薦会ということ
が、報酬だけが出てきているから、そこでわからなくなった。
こういうことなんです。

福祉事務所長(池田亮山君)　ただいま御質問は民生委員の推薦の
会が条例にはないということでごございます。　ただし、地方自治
法には、設置すべき、なければならぬと規定されております
ので、ここではそれを受けて処置したということでごございます。
議長(吉田勇治郎君)　他に御質疑ございませんか。――御質疑
なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)　御異議なしと認めます。

おはかりいたしました。本案を原案通り可決するに御異議ござ
いせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)　御異議なしと認めます。　さて本案は、原案通

リ可決さしまりました。

日程第九議案第七十三号を議題といたします。

御質疑を求めます。

二四番(遠山ヨネ子君)朝日新聞にのせてありましたが、私もこの条
例は、おかあさん方がほーがっていったことで、この運営がうまく
いったら、おかあさん方喜ぶと思います。

働いている方がよく耳にするわけですが、その前にこの間の課
長さんの説明では、預けてある方が実態として多いから
こういうことをしたというお話ですが、こういう統計の
取り方をなさってどうぐらいあるのを一番になさったのか。

それからもう一つ、補助の金額なりが、最初千葉市の
あれをお取りになったということですが、そういう補助の金
額、計算の基盤はおつたからわかるんですが、六
千円以内といたという数字はどういうふうにお出しにな

ったわ。

それから、私女でちよつとに配なのは家庭保育受託希望者第
二条の「六十五才以下者」とありますが、六十五才の年令が
少しオーバーではないかという心配が少しありますことと、
三号の「家庭生活が健全で、本人及び家族が健康であ
る者」とありますが、これは私は家庭にもし「不健康な
人」があつた場合には大へんだと思ひますが、こういうことに
対する処置は、どうなさるかということ、それからそういう
ことが具体的にいえたうおつていただきたい。

それから、五号の保健衛生とありますが、もし市がこういう
ことをあつせん一たうだったら、個人的とは違つて問題があ
つたときには市にもつてこられる。保健衛生は母親が気
にいらつておられますから、預かつた場合食事があるとす
ると単にきかいか、きたないかということではなく、カロリー計

算をなつか、ただ預けて無干渉であつては、こわい感
があります。栄養面、そういうことはどういふふうにす
るか。

とにかく、全体として家庭保育受託希望者に対する注
意は相当、必要だと思ひますが、そういうことについてお答
え願ひたいと思ひます。

・福祉事務所長(池田亮山君)お答え申し上げます。第一点、
人員と申しますか、現在把握してあります館山市内、
実態でございます。これは民生委員さんを補つて
一応調査して見たわけでございます。

予備調査というふうな形でこれを起案いたします。
当初におきまして今遠山議員さんが御心配になるよう
などうかという一応館山市であるかどうかということで調査
して見たわけでございます。

ただいま申し上げます。数は必ずしも確実な数とは言いきれないわけですが、現在個人的に預かっておる者が、ニチ一人、そういう数字が出てきております。この数字は、実は私たちも、もつとあるのではないかというふうに感づいております。という事は、預かっているという事で、その世帯の所得、関係等が明かるみに出てくるわけでございます。

そういったことも、幾らか調査に關係があるのではないかと思っております。

一応二十一世帯が預かっておるということが、確実に出てきました。

それから、大平用という数字をあげたのは、ということですが、います。これは、現在預かっておる値段と申しますか。その額は、どのくらいかということも、一緒に聞いてもらいたいわけです。

そう一ヶ月たり低い方で八千円、高い方一万二千円乃至一万三千円、ところがこの数字もまことに不確実だということが考えられます。その幼児の主食と申しますか、牛乳を持っていった場合、預け主が持っていた場合、買ってきている場合等がその金額の幅の中に入っておるわけでございます。

そう初め調査が不十分だったわけでございますが、要するに食物を預け主が持て残るだ・持たずに残らだということが、あまり正確な調査ではございませんが、一応そういった数字が出ているわけでございます。

そこでまん中を取りまいて一万円という数字を出したわけでございます。

そうしますと、これは千葉市の例をここに如味一まいて、積算したわけでございます。千葉市では主食として、

食事代一日百円・従つて二十五日・日曜等を除きますと、
月平均二十五日、保育と考えますと、二千五百円、という教
字が出てくるわけでございます。主食も預かり主が買った
場合でございます。

それから市から出します助成金を千五百円と一応します。
これは千葉市でも四十三年度から多分千五百円になった
と思います。千葉市は従来は千円、助成金でございます。
したが、千五百円に改める必要があるということ、現在そ
ういう話が出ておるのだということ、改めますということ
できたわけでございます。そうして預かりますものを六千
円にしますと、預かり主が食物を食べさうして一万円とい
うことになるわけです。

預かり主、ふところに入りますもの、六千円プラス市から
の千五百円合わせますと、七千五百円、これが預かり賃

でございます。ただし、ただいま主食の問題、間食の問題は相互の関係で現物で持っていく場合、もしくは預かり主が現金をもらって預かり主が買って与える。それは相互の契約の中できめたい。市条例の中で預かり賃と助成金を一応標準を規定したわけでございます。それ以下だということでございます。次に年令の問題でございます。一応二十五以上、六十五以下ということでは年寄り過ぎるということだと思いますが、現在六十五の御婦人だったり、子供さんを育てる経験者であるとすれば、大層の間で子供さんを遊ばせるには、大した支障がなかろうではないかということでは、六十五よりもしくはそれ以下でなければならぬという厳密な根拠もものではございません。

次に保健衛生と栄養面の問題でございますが、この

条例が施行さるゝときには、市で保健婦を二かにかかわりますところの保健婦を雇い上げまゝで、その保健婦が二預かります。家庭に巡回指導に回わらせるという方法を考えております。そうして預かりまゝに幼児の保健衛生面の指導に當つていく。これは千葉市でも、そういうふうになつております。

私も千葉市を視察いたしまして、その家庭を見て参りまして、まことに結構に揮毫されておたうに拝見いたしました。千葉市では、そのほかに指導保母の巡回指導もいたしております。保母さんには会いませんでしたが、できれば保育の仕方、そういう方法も考えるべき問題だ。ただ、最初から指導保母とか、そういうものは人数が預かり手が相当出てきてからう問題だと思ひます。これは、施行後に考えていく。

それから保健婦の問題、これはあつせんする以上は当然考える。そのように分けて考えておるわけでございます。御質問以上でございますか。

二四番(遠山ヨネ子君)家庭生活が健全で本人及び家庭が健康である。これを調べるのは大へんだ。具体的にどういふふうにするかということはいふはーい。

福祉事務所長(池田亮山君)糸例でもうたつておりますように、心身ともに健全であるべきだ。預かる以上、健全な家庭でなければならぬ。衛生上、健康上、十分留意させべき問題であります。場合によれば健康診断等も当然考えらるる問題でございます。

二四番(遠山ヨネ子君)今おつた場合によれば、でなしに三番は、相当きついもので調べていただかないと三々見なんでも、本当に大へんだと思います。本当に受託希望者という

のは、厳密にいたただかないと、こゝだけうことをするうちに、相当市では注意してゐていたただかないとおそらく問題が起る。市に問題を持ってくるおそれがある。

それからさつきおつちまいした保健衛生、食物なんていうものは、極端にいうと、受託を希望する方はそんなに栄養ということは、知識がないと思いますから、巡回指導をなさると思ひますが、せいっぱい両方、保母さんもあかて指導するようになっていたただかないと本当にみんなが喜んでくれるだけに、大へんだと思います。私は受託希望者について、市でせいっぱい気を付けていただきたいと思ひます。

二大番(秋山大三郎君) 第三条の三号でござります。心身ともに健康な児童であること。というところがありますが、こゝ預かります児童は生後四十二日以後、三才未満というのになつておりますので、心身ともにというの、心身がこゝに

の方ですが、これは非常にむずかしい問題だと思います。
むしろ健康な子供でいいと私は考えます。

こんな小さい子供に「心身ともに」ということはちょっと、お医者さんでも判定がむずかしいのではないかと思います。

二つ点についてうお考えを一つ。

・福祉事務所長(池田亮山君)むずかしい御質問でござい
ますが、幼児の場合、四十二日の場合「心身」がただちに
通用できるかどうか、確かにそうとおりでございしますが、最
高三才までということではございす。ある程度「心」の方
も考えられる。また子供さんごく特異の者でない限りは
当然あっせんできる子供ではないだろうかというふうに考
えておるわけでございます。——カー預けてから事故があ
るとか、先天的にそういうものがあったものをそのまま預
けて、その後に見えて大きな問題に当たるということを

一応譯けようとするわけで「心身」「心」を特に留意したわけでもございません。

二六番(秋山六三郎君)ただいま御説明によると「心身」の「心身」の方は心は、そう頭に置いてないということですが、三々見未満ということになっておるから三々見ぐらいになれば大体判定できるといふことですが、四十二日以降預けることができる。

そうしますと、やはり、その時点におけるこの条文からいいますと「心身」ということを全然度外視するわけにいかない。こういうことが考えられる。これは市の条例でありますから、条例でこういふふうになりますと、荷三々直くにはおはわかると言いますけれども、この条例には生後後四十二日以後、者が預かることができるとはつきり明示されております。

その場合に余分な文字が加わってゐるために何か疑問が感ぜられる。その点について。

福祉事務所長（池田亮山君）いろいろ足りないところもあろうかと

思います。これはあつせん、条例でございます。

預け主と預かり主との契約のもとにやるわけでございますから、ただいまのお話の場合、その御心配の点はないだろうと考えております。

まず客観的に見て、心身ともに健全だとすれば、これはあつせんするに該当する児童だということで預かり主の方であつ子では預からないということと言われれば、それまででございます。

この条例であつせんする場合には、どこそに預けなさいというあつせんの方ではなく、こういう方とこういう方が預かり主として市に申し込んでおりますから、どちらう家庭へとお預けになりますかということ、そのあつせんをよろうとするわけでございます。従つて今、御懸念の点は、そう心配

ーなくてもいいかと思ひます。

原則的には心身健全であることが原則でございます。

。二六番(秋山六三郎君)ただいまの答弁によりますとそうくは縣心念は多分あるまいということでございます。こゝ糸例で預かり主と預け主という双方の契約の上にたさけることであるからと申さしますけれども、三というふうに糸文化されておるといふ場合に、三というけじめがきちんとしておかねければならぬということが考えらるわけでございます。

ですから、私はこゝ「心身」の二字はいらないと思ひ、健康な児童であるということが本旨であらうと思ひます。

むしろ「心身ともに」の「心身」の問題はもっと成長してからう問題であつて生後四十日や五十日の子供にそんなことはわからぬと思ひます。

ーかー健康の上で、そういうことは心配ないということでは健康

さいふということであれば、私はあえてそれ以上申し上げません。
一応私の質問はこれで打ち切ります。

・福祉事務所長（池田亮山君）大へん申しわけないんですが、第六
条の二行目に見童家庭保育の委託があるせんが「旋」字
が「施」になつております。誤植でございますので御訂正
いただきたいと思います。

・三番（山田教字君）ちょっとお伺いいたんですが、千葉市をお調
べになつたようでございますが、この場合にあつせんいたしま
して、どんな事故が起らないとも限らないわけですが、千葉
市の場合で事故が起つたことがございますか。

たとえば、けがをさしたとか、そういう場合に市で責任を持
つような形のものがあつたかどうか。参考に関きたいと思ひ
ます。

・福祉事務所長（池田亮山君）子供のことです。ですから、若干の

けが等があった場合があるようでございます。

ーかー、その場合は市は責任を負わない。これは相互に預け主と預かり主の契約の中であつてございまして、預かり主の責任に帰するものは預かり主が負うのだ。預け主の方が責任があれば、預け主の方が負う。

なお、事故が起きた場合でございます。

預かり主は、ただちに医師さんに見せると同時に預け主に通報するということを契約書の中であつております。

九番(三幣勇君)第八条の「月間同一児童を二十日以上保育ーた」とありますが、二十日以上ということでございますが、受託の方の二十日未満ということとはわかりますが、委託者の都合で十九日ということであつた場合、二十日未満ということになりますか。そうですね。

福祉事務所長(池田亮山君)委託、受託の契約でございますから

預かり主の事故のために預からなかった場合には、いわゆる
支払いはいたしません。

預ける方で預けなかった場合に二十日以上ということでごさ
います。二十日を区切りまいたのは、一月に十日ぐらい預けて
預かりましたという事で、助成金をもらうためう措置を講
じられても、市の条例として、工合が悪いので、最低限二十日を
限度としてということをごさいます。

九番(三幣勇君)委託者の場合でたとえば、一日足りない十九日と
いう場合はどうですか。

福祉事務所長(池田亮山君) いずれにいたしましても、助成金を
出すには、二十日でなければいけない。それ以下を受託した場
合には、基本的にはだめだということでごさいます。

九番(三幣勇君)条例でこういうふうな二十日ということできめ
られて、まうと委託者の都合で二十日が一日足りない場合と

いう場合にこの適用を受けられないということはおちよと疑問があるんですが、ここになんか、条文が多少々ゆるみがあるものいいんではないかと思ひますが、たとえば月間同一児童をおよそ二十日とか、そういう条例であつてもいいような気がするんですが、その点いかがですか。

・福祉事務所長(池田亮山君)市条例で助成—という場合でございまして、どうか線で線を引かないと一日足らなくなつた場合、助成でございましてから、やっぱり二十日は二十日として一応助成を出す場合は、助成金に対しては、その制度を規定しておく必要があると思ひます。ただし、基本料金の大千円については相互で別に積算する必要がありまして、二十日というのは、助成金を出すわけでございます。

・議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございせんか。——

御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決さしなす。

暫時休憩いたします。

午後四時十九分 休憩

午後四時三十三分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

日程についておはかりいたします。

日程第十、第十一、第十二、各補正予算案は、こゝ際、こゝを一括して審議いたしたいと思ひます。

こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よつて日程は変更さし、三議案を一括して審議することに決まりました。議案第七十四号乃至第七十六号を一括して議題といたします。御質疑を求めます。

一八番(安西益男君)補正予算の面で先ほどもちつとお話ししたんですが、総務費のうち、備品購入費、ここに百九十五万、専用自動車購入費、こゝういうことになっているわけですが、専用車を購入するということが

まゝではいささかも反対するものではないうであります
が、現在、館山市におけるところの現状、そういう面から
考えていくならば、これは果たして妥当であるかどうかと
いうことをお伺いしたいというわけであります。

市々諸般の事情から申し上げますならば、市民感情、あ
るいはまた市民全般の方々に果たして納得が得るかど
うかということに疑念を抱くものでございます。

先ほどのいろいろ教育費特に育英資金等におきまし
ても、財政困難であるという面等が強く当局の方から
お話があったわけでございます。

また、いわゆる福祉問題、こういう面等から検討いたしま
しても非常にまだまだ充実されるまでには、ほど遠い感があ
る。

さらには、昨今、中央或いはまた館山市以外、地方自治体等に

おきましても非常に大衆の政治不信。そういう面が大きく打ち出されて批判の焦点になっておる。こういう観点からいくならばあくまでも地方行政なかんづく当館の市におきましても大衆を基盤にして、行政運営というものがさかていかなければならぬ。かように存ずるわけでございまして購入する点につきましても必要のことでありまして、当然であり、こゝうに感ずるものであります。この百九十五万という膨大といひまうか。大きな額というもうに對しましてやはり市民感情、先ほど申し上げました市民が果たして納得するであらうか。また今後問題が残らないかということも憂うるものでありまして、こゝう根拠といひまうか。こゝでなければならぬという、そういう面から検討されて計上されたのかどうかという面等につきましてもお伺ひたい。こゝうに思ひます。

財政課長(長谷川広治君) にお答えを申し上げます。

車、関係でございしますが、最近、いろいろ市に対する主賓と申しますか、ベリンハム等から、いいお客さんと申しますと失礼でございしますが、そういうお客さんがきた場合に、市長乗用車として、配置をしております。車を提供するわけでございしますが、いろいろ庶務課や契約係を通じて、願う折衝をいたわけてございしますが、この上程を申し上げました百九十五万の車を、適正だと申しますか、適当でなければ、かろうかという考え方で御提出を申し上げたわけでございします。

二八番(安西益男君) 館山市の權威と申しますか、そういうのも若干必要性があると思ひます。

一、カー、その他外部の体裁よりも、やはり内部の、大衆の基盤の上に立つということから、いかたければというふうな感を抱くものであります。

まあ、問題はかりでなく、削る予算はなるべく削り、それで大衆の福祉に万全を期して、という前向きな姿勢にいま、強く顕著な態度を持っていたらばと非常に遺憾の念を抱くものであります。このように計上された以上は、何が何でもということならいたし方ないことでございしますが、この予算の中から、多少なりとも検討して削れるというものが、もしおありになるようでしたら、お考えを聞かしていただきたい。こう思っています。

市長（本間譲君）今、安西議員さんから話がございまして、ごもっともだと思えますけれども、なかなか市長というものは一日に四回も五回も非常に忙しいですよ。

さう、自動車がないと十分活動ができないう面もございします。また、お客等もめつたに来ませんけれども、また場合もございます。

私はなるべく、そういう負担をかりないというのが、私の心がまえでおるわけです。

私はあるとき、財政課長に向かって、「おれは自動車なんかいうわいだよ。タクシーできてもかまわないよ。」といったくらいですよ。ですから、市長とすれば、個人本間ではないですから、どこでも持っておりますし、今は自動車はぜいたくの時代ではございませんね。これは実用品として必需品というふうなことであるわけでございまして、私の考えておるようなことだけではできない。ことにこれは、市長用自動車ですから、今乗っておるのは、五年も乗っておるんですよ。そんなに長く乗ることは本当はよくないですよ。去年あたりから買う時期だということであつたんです。が、私の方が辞退して参りました。この間も早く買った方がいいだろうと言いますけれども、おれはいいんだ。

これで結構だという考えでなるべく一日も遅らして買った方がいいという考えでおりまゝたけれども、自動車には耐用年限ですか、四年ぐらいが最高ではないですか、あと売ったりする関係もありますし、だから今日は自動車は実用、なくてけならぬ時代であることを私も考えております。また、個人本間でなく市長として極めて短時間に出ていかねければならぬことが、一ぱさううう日曜でも四カ所もいっております。自動車がなければこれはできません。

そういうことで私も自動車はいい自動車を買って乗っていくことはいよしと一ませんよ。

私ばかりではございません。ここに通勤する職員だって五十台ぐらいありますからね。そういう時代でございまして昔々自動車がぜいたくというふうな時代ではない。これは

は必需品だ。こう考えておりますけれども、その中においても私は何回も言いますけれども、財政課長におかれはいいから、タクシーに乗るからということも言いました。個人ではございせんから、今日本全国村でも町でも持つております。あんなうお考えうことも私もよく考えて、実はゑておるわけですから、お答え申し上げます。一八番(安西益男君) 自動車の必要性を大へん強調されておる。ですから私は質問の冒頭にこれは必要だということとは申し上げました。ただ現状において、いささかそういった額に対する計上ということに私はいわゆる市民の立場、そういう観点からするならば、何と言いましうか、批判の声が起こるうではなからうかということに心配するわけでありまして、あくまでも現在う時点におきましては、自動車の必要性は当然のこととてございまして

そういう点で私はお伺いしたわけでございます。

そういうわけでございまして、削いる予算はまだまだほかりこのような面等がございしますので、その点ができるかどうかというのを伺いたわけでございますので、そういう観点から今後も市々運営に当りまして、いま一歩そういったものを十分検討さしたい。

それから市長さんが課長さんに申されたということ。今までの前向きな姿勢という面から考えたならば、若干以外の感じがありまして、たゞ、お伺いたわけでありすが、今後ともやはりこの点等につきまては、十分大衆の感情、市民の基礎の上に立って十分検討さしていくことを切望いたしまして、私の質問を終わります。

二四番(田中祿郎君)きょう課長さんからいろいろ内容説明がありまして、私聞き落したと思いますが一ページ、民

生費う社会福祉統務費う二十節扶助費でございませうね
身障者施設扶助費二万四千円とございませうが、こゝは本
年度一人実施した。一カ月千円ずつだということを書いて
おりますが、収容の施設はどこにありますか。こゝを
明細に教えていただきたい。

それから二十ページ、五目農地費、農排水路維持人夫
賃、二カ所、こゝはどことどこうどんな排水路の維持費
であるか。これを御説明いただきたい。

それから二一ページ、駐車場整備工事費二百万、こゝは
どこ、駐車場か、聞き落しりました。こう三点について御説
明いただきたいと思ひます。

・福祉事務所長（池田亮山君）お答え申し上げます。

扶助費う二万四千円でございませうが、館山市が身障
者施設収容所というので、鶴舞う後保護指導所に

二人入つてゐるわけでございます。身障の厚生指導といひますか。そうしたものに対する制度が新しくできたわけでございます。

そふい分が四月一日から指導費としてその施設に交付するわけでございます。こちらから収容を委託してございますので、こちらからそれを支払うということでございます。

その経費は~~国~~が十分のへ、一割国が持つことになります。

・二四番(田中祿郎君)収容施設ですわ。どこですか。大きな声で福祉事務所長(池田亮山君)鶴舞でございます。県内でございます。農林水産課長(伊藤幸太郎君)農地費の十万円で申し上げます。こゝは那方うこちらから参りまして釜屋の四角うてまへの左側の田んぼのところでございます。

もう一つは南町の上方り山本の方から参ります排水路。こゝニカ所を予定してあります。こゝは過ぎました長

雨によりまして相当大幅の水路つまりがございまして、
人夫を雇いましてある程度、修理をいたさなければな
らぬような状態でございますので、ニカ所を予定したわ
けでございます。

・商工観光課長（山田俊康君）二ページ、駐車場整備工事
費二百万、実施場所は、城山公園の榎桜並木と昔々
幼稚園の方に上る桜並木。それから現在の中段にござい
ます駐車場ヒマラヤでございますが、あの上に上っていく三
角の地所、くぼ地になっておりますところとヒマラヤだ
の方へ上っていきます。道路の右側、無断耕作地につ
いて一部耕作者に折衝してと考えております。

・二四番（田中祿郎君）了承いたしました。続きまして二ページ
の工事請負費、十五節ですか。神余林道修復工事
というものがございますが、これを御説明願いたいと思ひます。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)この林道は御承知でございまい
ようが、上神余の駅ところから上って参ります。林道で
ございます。これも同様過ぎました長雨によりまして、一カ所
がけくずれが起ったわけでございます。交通にも大へん危
険でございますし、またご存じのとおり、牧場経営の仕事
も進めておりますので、それらと合わせまして、早急に復旧工
事をしたいということ、概算見積り三十六万を
願いたというわけでございます。

二四番(飯田義男君)まことにありがたいことでございますが、こい
こい間も現地にいつて見まいた。草地造成をやってるところ
では大型車が通れないでございまして、神余の区長さんが
秋のところに参ったわけでございますが、予算は取っているわけ
ですが、あそこは高うございまして、三十大万ぐらいの予算では
工事できないと思ひます。が、工事の内容と申しますか、

二 食 口 日 計 本
どういふうに工事をなさるか。それをお伺いしたいと思つて
おります。

農林水産課長(伊藤孝太郎君) 三十六万の見積りでございますが、現在計画しておりますのが、かけくずし個所々延長が一メートル、その下の方からコンクリの現場打ちをいたしまして、高さ大体三・五メートル程度、それに土止めをいたしまして、それに芝を張っていくという考え方でございまして、概算三十六万の工事費を見込んだわけでございます。二四番(田中祿郎君) これは一日も早く工事をいたしたくというふうに、今うちくずれると、市でやっております草地造成もできなくつたりますので、一日も早くやつたたくことを要望いたします。

続きまして、南部簡易水道の件でございます。地えでもって水道をーかけておりますが、私にはさっぱりわかりませんで

今回予算書を見ますと、国、県の補助金が非常に減額されておるといいますが、一般財源として二百六十万というものがここに組み込まれておる。

国、県の費用が少なくて減額されて、一般財源を二百六十万繰り入れるということは、非常におかしく思います。これはどんな関係ですか。こゝをお知らせ願いたいと思っております。

・衛生施設課長(大嶋重義君) 南部水道の二百六十万の一般会計の繰り入れの件でございますが、こゝにつきましてもは二百六十万は、この間御説明申し上げたんですが、加入者が当初六百戸の予定であったものが、約八百戸の見込み二百戸ふえたわけでございます。

南部水道の受益者負担と申しますか、加入に当りまして、当初本管分の負担分として一万五千円、流末分として

はつきりないけれども、一応一百万程度ということでお金
 一たわけでございます。こゝ一五千万分につきまゝて、
 二百戸ふえたものが、三百万、これが一般会計の衛生寄
 付金として受け入れられて、実は、そうした性質のも
 でございます。それを一般会計から南部水道の
 特に流木工事分に充てると、いうことで繰り出さる
 願ひして、一般会計から繰り入れということになるわけ
 でございます。

国や県の補助金が減つてゐるのに、一般会計で、さうした
 ものを繰り入れるということは、奇異の感を抱かせる
 わけでございます。こゝも、だと思ひますが、さうしたよ
 うな三百万の特定負担金でございせんけれども、寄
 付という性質でございします。こゝをもつて、工事費
 に充てて流木工事の負担を軽減して、いきたいというこ

二でございます。

・二四番（田中祿郎君）簡単でよろしゅうございますが、四十二年度に水道工事をいたしました。実際、まだ決算が出ておらんではないかと思っておりますが、こういうことを聞くのはどうかと思いますが、大略でよろしゅうございますから、四十二年度に井戸とダムとそうしたもの、総工費がおわかりになりまうたら教えていただきたい。

また四十三年度分り工事がどうかにかかるといふことを教えていただきたいと思っております。

・衛生施設課長（大嶋重義君）御説明申し上げます。

お手もとに南部簡易水道事業費内訳という印刷物を差し上げてあると思っておりますので、それによって御説明申し上げます。たいと思っております。

当初この南部水道事業は当初計画におきまうては左

欄にありますように事業費関係でありますが一億
大千八百円で計画いたしたわけでございます。

それで三月に一部補正をいたしてございまして、この数字
は三月には四十二年度の補正が行なわれまして、そこが一億
六千二百六十五万八千円という数字になるわけでございます。

それで工事でございますが、四十二年度と四十三年度に分けて
ございますが、大体四十二年度はこの数字は確定ではござ
いませんが、大体終了見込みでございしますが、一部工事
では残っております。国や財政事情によりまして繰り
延べを受けたわけでございます。これが二千六百万あるわけ
でございしますが、これが四十二年度の中に含まれておるわけ
でございします。

四十二年度の工事におきましては、取水口、堰堤、ダムと井戸
の関係が二千二百三十一万でございします。

それから取水のポンプ関係が一千万余でございます。

それから導水施設でございますが二百三十四万。浄水施設チ
四百万余。配水施設。浄水場から本管を引く工事でございます
ますが、これが千七百八十万余でございます。

それから道路復旧二百十万余ということで。純工事関係では
七千九百万。そうほか用地補償とか、設計監督委託、
そういうものを含めまして八千五百三十五万二千円という方が、四
十二年度、総事業費になっておるわけでございます。

それで、その中には、今申し上げましたおまな繰り延べ工事
としてダムが分、それから取水ポンプ関係、それから浄水場
あそこには、配水池とか、ろ過池とか、沈浄用水とか、薬
品滅菌室とかいろいろあるわけでございますが、おまなものは
は、浄水池、ろ過池関係がやはり繰り延べになっておる
わけでございます。三ついったものと道路の復旧関係、こ

ういったものがおもな繰り延べ二千六百万の繰り延べと
してこの中に入っておるわけでございますが、大体おもなも
うはダムとろ過池、路面復旧、こーしたものが、今なお
事業を継続実施しておるわけでございます。

四十三年度分でございますが、堰堤工事のうちダムの一部
でございます。これにここに参ります道路関係も入りま

すが、これとおもなものは、浄水施設でございます。

浄水施設でもろ過池を除くものでございます。

それから一部配管工事がございます。大体一五〇以下のも
のでございます。

それから路面工事でございます。そういったものでござい
ますが、四十三年度におきましては、大体仕上げ期工事
であるというふうに解釈いただければよろしいかと思ひます。
こーしたものが、四千八百四十七万九千円というふうなことで継続

事業の現在における内容でございします。

・二四番(田中祿郎君)大へん細かく御説明くださいまーたが、そういたしますと、昭和四十二年度八千五百三十五万二千円、四千八百四十七万九千円、この工事でもって全部できるといふように解釈してよろしゅうございまいょうか。

・衛生施設課長(大嶋重義君)大体この範囲でできる見込みでございします。

・二四番(田中祿郎君)どうも、これが私あたりーろうとでわかりませんが、やっていると見ますと、本管とか、堰提工事、それから井戸の掘さくとか、いうものも、請負と流末の請負というものが、請負う会社が違ふんですが、こういうことは一本にして入札するといふことはでき得ないものでございまいょうか。そこうところをお伺いしたいと思います。

・衛生施設課長(大嶋重義君)敷設工事の中に合わせて流末工

事を含めて入れできないかということですが、水道という大きな施設工事におきまゝでは、当初お発當時におきまゝでは、加入者の把握というものができないわけでございます。そういうことで一応敷設工事は敷設工事として区切り流末工事については別に見ていくというのが大体水道工事としても一般の通例でございます。その方が確実に事業の総体もつかめますし、請負等につきまゝでも、正確を期せらるゝということでもおるわけでございます。

二四番(田中祿郎君) お話を伺えばごもつともだと思ひますが、私たちが考えは本管をいけた。すぐ埋める。流末のときにまた掘りくりかえす。非常に手数がかかるというのと、我々は市の事業としてありますには、加入者負担は問題でなくて、はじめのうちには、これぐらい金額

で入札させる。そうして加入者があつたら、加入者の方から寄付金ですか。負担金を出すという考えでおつたんですが、そこで、私の考えと課長さんのお考えと食い違つたと思ひますが、御説明でよくわかりました。以上で質問を打ち切ります。三番(嶋田石蔵君)南部水道について若干お尋ねしたいと思います。

今、田中議員さん、御説明でかなりわかつたわけでありまして、事業費概要より一番上欄にある取水堰堤、これが四千六百八十万、それが現在計画では三千七百十三万ということに付て、その差が千六百五十万あるわけですが、こういう水道事業は他の事業と違つて計画とちやうど見るとう差というもの、他の事業には見られないようなことが起り得ると思ひますけれども、ここで備考のところ、最初計画になかつた井戸二本をなお追加して、總体的に減つたということに

ついでに取水堰堤というものが、当初計画と現在計画とかなり違いがあつたによつて、こういう結果が出てゐるのではないかと思ひますが、その堰堤の規模その他についてももう少し詳しいところを御説明願ひたいと思ひます。

衛生施設課長(大嶋重義君) 堰堤関係の御質問でございますが、当初この水道の計画におきましては先日の説明の際にも申し上げましたんですが、井戸は使わないでダムだけで取水源を求めていくだということであつたわけですよ。それは大体十万吨ぐらいの水量が得られるのではないかという、当時はおおざっぱな計画のもとに予算等も計算されたわけでございます。実際に水調査等をして見ますと、現在堰堤を作つてゐるあたりにはボーリングを行つて見ますと、二カ所ばかりあつたわけですが、非

常に自墳があるということでは、こゝならば井戸の方が可能じゃなかろうかということでは、井戸を主体にして堰堤とダムを減らして、いくようにしたらどうかということでは、当初計画につきまゝ、こゝ変更が行なわれたわけでございます。

それで現在、堰堤でございしますが、規模は、高さが一〇・八メートル、長さが一九・五、取水量が一・〇、ロートンという規模で、それに井戸が二本、こゝ井戸は大体、井戸から、五ロートン取水するということでは、掘さくたわけでは、ございます。

井戸は大体、一本が二五ロートンぐらいということでは、ございまして、たか、道ばたの方、近ばり井戸の方は、約三ロートンから、三五ロートンぐらい出しておるわけでございまして、奥の方、第二井戸につきまゝ、では、水量が当初の計画より、少なくて、一五ロートンぐらい、大体、四五ロートンから、五ロートンぐらい、取水が可能である、という現状でございまして、一日、最大限に、まゝでも、計

画給水人口の四千九百に対してこれだけあれば十分まかなえる
ということでございますが、そうしたこと、当初システム関係に
つきまゝではおぼつかない計画で始めたということ、
規模は細かいところまでのもう、今のところ、データーを
持つておりませんが、そのようなことで、変更になったわけで
ございます。

・三番(鳴田石蔵君)過日課長さんの説明でやって見た
ところがかなり加入者への距離や、岩盤、コンクリート等
によって大へん予算がくるった。それで加入者負担が六
千円ぐらい多くなったというふうな説明があったと思いま
すが、私たちが、地元におきまして六千円増加は物価が
値が上ったために上ったのだというふうな説明がござい
ましたですが、この「点」については、課長さんがおっし
ゃっておる岩盤、あるいはコンクリートというふうなことで

それだけ入るものが、加算されたということに解釈するわけでは
ございませうけれども、私たちが加入するに当たっては、当初の
話し合いでは、二万五千円ということでありまして、この表に
もありますように、加入者負担は、本管に対しては、一ミミリ
メートルで一萬五千円、流末工事については、一万円というふうな
ことであったと思います。

それが今度、増加の分が、流末工事が、一万円にプラス六千円、
多くなるのだというふうなことで、あるわけでございませうが、岩盤
コンクリートあるいは、距離等によつて大へん見積りが
かわつてきたというところで、最初より申し込み予定が六百
であつたのが、現在は、八百、普通の場合には、加入者が多く
なれば多くなるほど、個人より負担金が減るゝが常識で
すが、こういうことになるほど多くなれば、加入者負担
が大きくなるという勘定になるのではなからうかと思ひい

ますが、それを幾分でも軽くしようというのであとう
二百ばかりの加入者増う本管負担分とそれから今迄
ほど質問がありまゝてお答えがあったように一般財源
から二百何万か合せて、それを流末工事の六千円分
をカバーして三千円ぐらいにとどめるのだということがあつた
と思いますが、その正確な数字は三千円でございますか。
それを伺います。

衛生施設課長(大嶋重義君) お答え申し上げます。

流末工事におきましては、一戸当り一万三千円の負担金と
いう計算でございます。

これについて根拠といひますが、御説明申し上げますと、
当初確かに部落にいきまゝて流末工事は、ほぼ一万円ぐ
らいだろうということを示して参ったわけでございます。

これは今まで西岬、果下り、そうした簡易水道を実施し

た町村等の实例等を見ましても大体そういたような受益者より流末工事の負担金のようにございますので、これを始めるに三三年前よりその当時は一応そういう線でお出しなわけでございます。

この予算等を作るのに精密な一軒一軒の实地踏査は、なかなかたわけでございます。それが今回、流末を引くという関係になりまして、専門の設計家に設計をしてもらったわけでございます。

それは厚生省より示す基準の大綱によつてなつたものでございまして、これをみますと、この中には、一応材料費とか、労務費、道路の補修、諸経費、設計費、こういうものを含めますと、約千六百万余りの設計の見積り額が出てきておるわけでございます。これを七百七十余万加入数で割りますと、二万九千九百円余りの数字になるわけでございます。

これは富崎から神余までが全部をひくための数字でございます。

総じて言えることは、富崎地区におきまして申し上げましたように岩盤地帯が多いということ。それからコンクリートとか舗装関係にほとんどさかえているということが特徴でございます。距離の点では、短かい点がありますが、そういう特徴がございます。

反面神戸から神余にかけては、岩盤とかコンクリートということよりも、農家関係が多くございますので、距離関係が長い。こういう特徴があるわけでござります。こういう関係から、これをみますという、二万一千円余のデータが上っているわけでござります。

これをあまりに負担が重くなる、というので、ということはい、我々当初より予算計上の時点におきましても、多少見積り

が甘かったという点もあろうかと思ひますが、そういうことからなるべく受益者の負担を軽減しようということで今回の補正に流末工事関係はなるべく直営でやるというた負担を軽減をはかろうということ、今回お願いしたわけでございますが、この中でハページでございますが、ひくくるめまゝで今後、給水工事費としては千三百万余というわけでございます。

こゝに對して一萬三千円、負担金で八百戸といひますと、こゝが一千万余というふうになるわけでございます。ですから、その差が約二百六十九万ばかりございますが、こゝが一般会計から繰り入れということではないんですけれども、結果から、そうなつておるんですが、大体、こゝが該当するようにもなりますが、結果からみると、實際にはこゝ以外に企業会計ではございせんから、嚴格な原価計算はできませんが、こゝに旅費等においても、職員が市内出張でいく旅費が流末工事を引くに當

理費の旅費、維持管理費のトラフの購入とか燃料、修繕とか、こつたものも建設途上においては、こつたものは、給水工事に投入されていくということ。さらに水道には、職員が五人に臨時の職員が三人計八人いるわけでございますが、こつた工事に当る場合には、それぞれ簡易水道に計上された職員りの給料、或いは賃金等も実際にこれ以外に出でてゐるといふこととで、この流末工事をなるべく軽くさせようということとで、一万三千円という数字でございます。

・三番(嶋田石蔵君) 今課長さんからの細かい説明があります。私が聞いておるところでは、消化ーきかないのであります。が、おおづかみにいって、二万一千円、かかるところを一万三千円、一万円がプラス三千円であるということだけは、了承いたしましたし、それについて、大へん苦心をされておるといふ

ことも承いたしました。ただ、私がここで伺ったのは、地えでなぜだ
けだと聞かれたときに私が説明できないので伺ったわけで
ございます。

なお簡易水道法というものがあろうかどうか。その点課長
さんに伺います。

衛生施設課長(大嶋重義君)お答えします。水道法一本に
なっております。

三番(嶋田石蔵君)水道法では加入者負担の金額というもの
には何か制限があるでしょうか。どうですか。幾らを超えて
はならないというふうなことがございましょうか。

衛生施設課長(大嶋重義君)そうした制限はございません。

三番(嶋田石蔵君)それからここに大体八百戸の加入者がある
のでございます。けれども、なお、この表を見ますと、今後も
加入者がふえるのではないかと、このことが見通しされる。

ですけれども全部工事が完了して契約期間等も
ありますので、それが終わったあとに加入せんとする者は加
入者負担は、どういうことになりますか、それをお知らせ
願いたいと思います。

衛生施設課長（大嶋重義君）完成後加入でございます
が、これにつきまゝでは、現在同じ簡易水道でも西岬関
係にもあるわけでございますが、一応加入者負担とては、
二万円の寄付り名義をもつて納めてもらつております。
そういうような関係から、これはまだ、はっきりきまりませ
んけれども、一応やはり同じ簡易水道でありますので、そ
う程度加入者負担をいただいでいくべきではなからうか
と考えております。

三番（嶋田石蔵君）私がこれをお聞きするのは、いつか西岬の
方が簡易水道で加入者負担がばらばらなことがありま

ーたうで、念うために聞きまーたんですが、二万円ぐらいで済むのですか。最初入る人は二万五千円プラス三千円で二万八千円になります。わけですが、新しい人は二万円です。

議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。

本日の会議時間は、議事の都合により、こゝ際、あらかじめこれを延長したいと思ひます。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。まう、会議時間は延長することに決定いたしました。

答弁を求めます。

衛生施設課長(大嶋重義君)私、言葉が足りなかつたわけでごさいます。加入する場合には加入者負担金、二万円、ほか、流末工事の実費費用がプラスされて入るということになり

ます。

三番(嶋田石蔵君)了承いたしました。

二番(中村省吾君)簡単なことですが、説明がなかったと思ひますので伺ひておきたいと思ひます。

衛生費それから消防にもありますが、車両保険任意保険という説明はあつたと思ひます。ないところもございまいたが、車両保険や任意保険が対人なのか、対物保険なのか、なお対人対物ともにどうぐらいう保険に入っておるか、御説明願ひたいと思ひます。

財政課長(長谷川広治君)各項目を通トマて対人任意保険でございます。

額は一名五百万を限度にしております。

二番(中村省吾君)一車両五百万でございますね。その場合に今後、問題もありますので、要望がありますか、

車両保険料むろ対人保険といった方が任意保険にははつきりするわけでございますけれども、対人保険或いは対物保険、そういうふうに記載された方がよいのではないかと思ひます。このことは予算審査の場々でもこうたはつきりとした字句を使ってはいいというところで同じような要望も出ておりますので、今後、そういう記載願ひたいと思ひます。

ニ番（石井輝久君）ニ四番議員並びに三番議員より御質問に、関連してちよとお伺ひいたします。

まず、第一に財政課長さんにお伺ひたいんですが、昭和四十三年、度、館山市、南部、簡易水道事業、特別会計、補正予算、補正減額を千百六十四万いたしておりまして、これは対して一般財源から二百六十万円、これは先ほどから質問が続いておりまして御答弁も繰り返しておりましたが、特に財政課長さんにお伺ひたいと思ひますが、これは

財政上り見地から果たして特別会計へう一般財源の繰り出しが一方におきまゝで減額をさへしておるに一般財源を二百六十万円繰り出すことが好ましいことであるか。一つ財政上り見地から、まず第一点伺いたいと思ひます。

・財政課長（長谷川広治君）お答えを申し上げます。

この二百六十万の繰り出しにつきまゝでは、これは純市費の繰り出しではなくて、予算操作が一般会計に三百万受け入れまゝで、そうして特別の方に三百万繰り出すという数字でござい、ます。が、ただ、一般会計で二百六十万という数字になつておりますが、南部簡水の特別会計におきまして、当初予算において、純市費でもうてまかなわゆる予定の公債費、いわゆる借金を返す額が四十万軽減し、まゝたゞで差し引きいたしまして、二百六十万を繰り出す

ということにいたしたわけでございます。いわゆる受益負担を
そのまま回すということでございます。

・二番（石井輝久君）ただいまの答弁了承いたしました。

ところで次に衛生施設課長さんにお伺い申し上げます。

先ほど来の御答弁では、了承いたしたところでございますが、
給水戸数が、当初の予定より約二百増加することに結構
だと思えますが、どうも三番議員の質問に関連して
恐縮ですが、岩盤の関係等による歳出増、このように理
解してよろしうございますか。この点お伺いいたします。

・衛生施設課長（大嶋重義君）大体特徴は、富崎地区等は、
岩盤あるいは舗装関係ということでございますし、神戸
・神余地区におきましては、特に農村地帯でございますので、
距離が本庁から家庭に近く距離が一般に長いという
ところが特徴でございます。かような原因でございます。

二番（石井輝久君）引き続きまして御質問申し上げます。
 水道に關しましては非常にボーリング調査等一般の土
 木關係と違ひましてむずかしい面があるように承わつて
 おります。

従いまして当初計画と実施計画とが相当程度違ひを生
 ずるといふこともあり得ると思ひます。一かーながら私
 ども館山市・三芳村・富浦町や三町村の組合で施行し
 ております水道にもそういった面があつたのでございすが
 ただいま課長さん御答弁の程度は調査は当時
 からでないものでございまいやうか。富崎地区に岩盤が
 多くてこちらに農村にきて岩盤がないといふことはし
 ろうとが見てもわかるんで、その程度の調査が当初
 できなかったものであるかどうか、できなければ、その理由
 をお聞かせ願ひます。

・衛生施設課長(大嶋重義君) 答え申し上げます。

水道の流末工事につきましては、この水道の仕事の順序としますと一番あとに回す順序になるわけでございますが、当初この水道を行なう前には、実際に一戸一戸の精密な調査は行なわなかったわけでございます。

大体一万年程度と申し上げたのは、先ほども申し上げましたように、大体今まで行ないました西岬なり、県下簡水のそういう状況を見ますと流末はば一万年程度におさえておるといふようなことから、そうした一軒一軒の実地調査は行なわないでおおざっぱでございますけれども計算で一応出いたわけでございまして、そのような細かい実地調査を行なわなかったわけでございます。

・二番(石井輝久君) 引き続きまして御質問申し上げます。

先ほど直営で今後お進みになるというところ御説明がご

ごいまだ。

今後は補正の必要なく工事を進めることができる予定です。
その見通しをお伺いいたします。

衛生施設課長（大嶋重義君）今回、補正予算議決を
いただきます。この予算のもとに流木工事を完成
できる見込みでございます。

二番（石井輝久君）南部水道特別会計に関します御質問
について打ち切ります。

引き続きまして、財政課長さんにお伺いいたします。
今回一般会計の補正を二千十三万余、当初予算総額
十億六千万余、今回二千万余、ふえたんですが、今後年度
末まで、大体どの程度、財政が膨張する見込みであるか
その見通しをごいまだらうお伺いいたします。

財政課長（長谷川広治君）現在私もうろたで数字を把握いた

ております。自後の財源といたしましては、ベースアップの改訂、二
れが、約二千万程度必要とするのではないかと、こう考えております。
す。現在うところ、確定しております。財源がございませ
んの。ある程度事業の繰り延べ、あるいは効率的な
使用等によつて相当額を補正の上、更正しなければならな
いのではないかと、いうように現在考えております。

ニ番（石井輝久君）引き続きまして、財政課長さんにお伺いします。
いてみますと、一方におきまして繰り延べ等によつて減額更
正をして一方におきましてベースアップ等の必要とするという
ことになりますと、大体今後補正さかします。一般会計予
算の総額十億七千万程度で年度末、過ぎると、いうこと
になりますか。

財政課長（長谷川広治君）約十一億に近くなるのではないかと
いう予想を持っております。

二番(石井輝久君)わかりました。引き続きまして参考までにその投資的経費消費的経費の見通しを分析をお聞かせ願います。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午後五時四十一分 休憩

午後五時五十五分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

財政課長(長谷川広治君)投資的経費等との関係がござい
ますが、実質的投資経費が約三億五千万その比率は
約二八％弱だと思えます。その程度になると思います。
二番(石井輝久君)ただいまの答弁で了承いたします。

二八％の投資的経費と申しますと、ちよつと投資的経費が、パーセンテージからいくと少ないようにも感ずりますが、これは、いづれ別な機会に御質問申し上げたいと思ひます。

一カーナガラ、ほぼ健全財政と呼ぶべきでありまうか。
いふべきでございまいう。以上をもちまゐて、私の質問を打ち切ります。

一五番(石井正君)二点お伺ひいたします。

二一ページの七款、商工費の三目、観光費十五節、工事請負費の中、観光案内所、工事でございすが、先般の説明はよく聞きまゐたが、規模と内容について、まず御説明いただきたいと思ひます。

次に二三ページ、小学費の二は、中学校費にも関係しますが、教育費の方で、学校事務員、補佐員、賃金などが、おあります。

小学校の場合には、富崎と神余、中学の場合は一中、二中、
 という御説明でございまして、北条と館山の各小学校にも
 いわゆるPTAの負担によつて雇つておる事務員がおるわけ
 なんです。この負担については、市でまかなわねばいかうか、
 どうか、この二点をお聞きます。

・商工観光課長（山田俊康君）観光案内所の工事の内容で
 ございますけれども、大きさは現在考えておりますものは、
 約七坪、坪当り七万ぐらい、七万余円を考えております。
 約五十万、十方で撤去費用というふうに考えております。
 建物は現在、駅前、交番の西側であります。
 交番の建物と見劣りしないようにすつきりたものを建
 てたいと考えております。

・教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君）学校事務の補佐員
 の関係でございしますが、今年度四名をお願いいたうでござ

ございますが、四十四年度、四十五年度であると、残リうものをふや
ていきたいという考えでございます。

二五番（石井正君）案内所ですが、大体の計算を六十万取りこわ
しを含めてということと、今の計算でいくと約五十万が新築う
方にかかりますが、聞きますと、あそこは非常に狭いところで
間口は一間半ぐらい建物しか建たない。

当然、これは七坪ですか、二階建ううなものもを考えていうでは
ないかと思いますが、いわゆる案内所の場合、間口が非
常に広い方がお客さんを迎えいいのではないかと思つうわけ
です。

現在できておるところが、理由はよくわかりませんが、交通がどう
のこうというところで、取りこわしう理由がよくわかりませんが、
現在うところが、お客さんとしては都合がいいわけです。

今後駅がどのように改築、新築されるかはわかりませんが、現

在り立場としては非常に場所がいいとはいえません。

聞きますと、間口も非常に狭くなると想像されます。

この点を非常に心配していたわけなんです。特に五十万では大した建物ができないのではないかと思つたのです。館山市

としては観光というものを三本の一ツう大きな柱として、案内所が非常に大事なもうではないかというふうに考えるわけですが、この点というふうに観光課長お考えになつておるか。

私に配するんですが、わがりますか。私の関心というところがあることがお答え願ひたいと思います。

それから、補佐員の方は四十四年度と四十五年度でやるといいますが、今、お答えになつてゐるのは、補佐員がいわゆる事務職員がいけない。

たとえば、神余あるいは富崎というふうな今後、増員をそういう形で継続してゐておられる。これは大へんいいわけ

ですが、二中、北条のような場合にはすでに一名おる。

おそれさらに不足だということでは、PTAが負担してもう一名追加しているのですが、こういうのも同じような。新規に補充する学校と同じような考え方で、総数から割り出して二名ずつふやして行くか、その点。

・商工観光課長(山田俊康君) 案内所の工事につきましては、五十万ではでき得るかどうかということであり、現存の建物、場所は交通安全上、相当。今まで昨年、今年と夏に特に道路を横断して聞きにくるものが非常に危険だということを聞いており、なお一部份雨漏りして、それから補修等の経費もかかりますので、この際ということで、国鉄当局に地所を譲渡してもらったわけであり、すけれども、いろいろほかにもと、出口のところ、いい場所がないかということ、で交渉いたしまして、たけれども、交渉の結果、交番の隣りか

借してもらえないということになりまして、なお文番の隣に作ります場合、現在、案内所にあります資料等は、二階に上げて、それで、いいというふうなことで、一応五十万の予算で隣、文番と同じようにブロッコ建というわけには参りませんけれども、体裁のいいものを作つて、完全に案内所として、いいを整えていきたいと考えております。

・教育委員会庶務課長（千場伊右衛門君）学校補佐員の北条とか、館山とか、大きいところをどうするかという関係でございまして、私の方で考えておるのは、まず、事務補助者のいないところ、それとともに、今年、二つのやつたように、北条小学校、館山小学校等、現在、事務員がおつても、非常に学級数が多いところは、やはり、四十四年度、四十五年度で考えていきたいと思つております。

・一五番（石井正君）観光案内所ですが、今若い答弁のように

聞えますが、場所がないということでも、これも普通なら予算を削ぐというんですが、私はふやしてもいいと思う。今、二階に資料を上げるということも間口が狭いためにそういう結果になると思うんですが、非常に残念なことだと思う。館山市観光の窓口ですから、十分考慮して、幾ら私がいつでも変更しようということは言わないかもしれませんが、なかなか観光課長は強いので、市長以下きまったことは、がんともやうになかなか曲げませんで、ここで今幾らいつでもいようがないと思えますが、事実、私の質問を聞きながら二階だ、二階だという方がないな、という声もうしろから聞えます。なお足らなければ、こういうところに使うべきだと思ふ。十分考慮していただきたい。

学校の方は一応了解しますが、二中を名づけるのですから、北条館山は要求権がございます。そうするとほかう小さな

ないところ、補佐員につきまゝでうバランスがむずかしく
なると思いますが、そういう点で大きな学校は、考えてやらなければならぬと思います。要望と終ります。

二四番（遠山ヨネ子君）消防費のところであらうか、お聞きしたいんですが、ニニバーニ常備消防費、災害補償費、以前けがをした方が、重傷者が千葉の労災病院にお入りになったというんですが、三カ月分だということですが、だいぶ長いと思うんです。どうぐらい入っておるか。この方は職場復帰ができるんですか。それから私わからないんですが、長いつに災害補償費として療養費を出して、本当の条例によるやり方ですか。それからこの方、給与やなんかはどういうふうになっていきますか。この方、家族は、私はじめに聞いたんですけれども、家族はどうか、ういうふうになっているか。家族構成ですわ。それをお聞きしたいと思います。

それから、これもわからなくて、お聞きするんですが、消防施設費で国庫支出金が二十万五千円で購入費が小型動力ポンプ九万という差があるんですが、これはどういうわけでこんな差が出るのか、お尋ねしたいと思います。

消防本部次長(岩田実君) お答えいたします。過日御説明申し上げまして、御説明が足らなかつたと思いますが、昨年の七月、消防車の事故で一番重傷を負いました柏谷消防士でございまして、昨年いっぱい入院加療をいたしてございしますが、一応よくなったということ、今年一月以来軽い勤務についておるでございまして、私どももそのままよくなつてくれればと思つておりました。本年の六月にどうもけがをしたところが痛み出た。こういうことでございまして、こちらにおいてになります。伊賀先生にいろいろ治療をしていただいたのでございますが、本人がやはり専門、千葉の労災病院にいきたいということでございまして、

七月二十三日入院いたしました。実は一昨日土曜日でございますが、いまたか、退院いたしました。帰って参ったのでございますが、七月二十三日に入院いたしました際に私も同行いたしました。先生にいろいろお聞きいたしたのでございますが、大体一日千五百円、ぐらいて二月ぐらいかもしねないけれども、少し余分に見ても、三月ぐらいすねば大体なくなるのではないかと、いうことでございます。一日入院治療費千五百円を見込みまして、それに七月二十三日から七月いっぱい入院費、これは請求が参っております。約一万七千円でございますが、これを加えまして十五万二千円をお願いした次第でございます。従いまして、実際に入院しておりますのは、二月とまあ、八、九と九月が若干二三日減るわけでございまして、約二月と一週間ばかり、こういうことでございまして、十五万二千円までは、かからないのではないかと、こういうふうに考えております。

なお、今まで昨年いっぱい入院加療いたしまして、また本年の六月からこちらで病院で治療いたしましてたものを合算いたしますと、今までにすでに支払わいたものが三十四万ばかりでございます。ただし、これは、自賠法に基づきます。障害補償といたしまして一名五十万までは、自賠法に基づく保険がもらえるようになっておるわけでございまして、治療いたあかつきには、請求してこれをもろうという考えであります。なお、本人の給与でございます。本は四年前に高等学校を卒業いたしまして消防署に入った職員でございまして、現在、五級のはっきりと申し上げれば、五か大の給与を受けておるわけでございます。

家族構成は両親は健在でございまして、本人は長男でございまして、確か妹が一人おる。男は、この柏右消防士一人だ。こういうふうに伺っております。

第二点、消防施設費の中の備品購入費九万円でござい
ますが、これは作名、小型動力ポンプでございまして、ここ
は先日、御説明申し上げましたとおり、一応本体だけ
三十万をもって予算をちょうだいしたわけでござい
ますが、館山ではじめてでございますが、小型ポンプに
国が補助がつきまして、国が小型ポンプの基準が三十
万でございます。

そうしまして、三十万以上のものを買った場合に、三
分の一、十万円の補助が出るわけでございます。そ
うしますと、実際には、十九万で本体だけは買える
わけでございしますが、ただ十九万で買った場合
には、全然国から補助が出ないわけでござい
まして、補助金をもらう基準といたしまして、ポン
プ本体にホースを三本付けなければ、補助金はも
らえない。こういう制約もあるわけでござい
まして、実際、小型動力ポンプは十九万で今
までずっと買っておるわけでござい
ますが、

市販価格は約二十四万ばかりするわけでございます。これにホースを三本付けますと、三十万ぐらいになるわけでございます。そのため、国が基準額は三十万というのになつております。その關係上ポンプ本体にホース三本のほかもう五本付けまして、ホース八本付けまして、約三十万ちょっと出るわけでございますが、勉強させまして三十万で買おう。こういうことでございまして、二十万五千円、国補助金でございしますが、これは直接ポンプ購入には關係ないのでございます。

二十万の方は、昨年の九月に債務負担行為で議決をいたさしまして、本年の当初に支払いまして船形の下り第一部の消防車に果し補助金が二十万ございました。

それから当初に消防費として国が補助を見込んだのが、六十二万円でございしますが、実際に決定を見て参ったのが、六十二万五千円でございまして、当初予算より五千円ふ

えまーて、そのふえに五千円を当初に組みませんでした。

県消防車に対する補助金 二十万を加えまして、三三に二十万五千円、特定財源がまゐたわけでございます。

そんな関係で直接二十万五千円と備品購入費の九万円は関係ない。こういうことになるわけでございます。

二四番（遠山ヨネ子君）最初の療養費補償のことですが、

私
そ
う
方
が
長
い
の
で
家
族
が
ど
う
い
う
も
う
か
心
配
で
お
聞

きーたんですが、五級の五号俸ですか。四年前に就職

なさうそ、間に幾らかもういっぺんいていただきたいことで

すが、私がお聞きたいのは対人補償ですか。補償をも

らうても去年の七月から、三ヶ月くらい休んでいたら、家族的に

非常に不安でしょうし、千葉にいったりたらだいたいふ、

あふーほうと思うんです。鈴料を出しているかということ、

五号、五号俸というの、四半間に上ったことなんですか。

私わからないんですけれども、四半間に上っていらつゝやるかどうか。要は私ゝ気持はこういう公務によつてこんな長い病気を——
たんですから、十分当局が補償してやてほしいという気持なん
ですが、念のため五級五号俸というところぐらいか、お聞きーたい
と思います。

それから消防施設費の方ですが、数字、たくさん言わねてわか
らなかつたんです。が、こういう国庫支出金を組んであと三三に
小型動力と数字の違ふものを、こういうふうに買ふと、実際には、
お金がどうなっているか、知らないけれども、私、不思議な気がす
るんですが、それに関連——まゝて、こういうことができるの、てーたら
ここでも、予算が残っているわけですが、ちやうと関連になつて
あつたんですが、ここに議員さんいらして申しわけないんですが、触
れない方がいいかもしれません。こゝ間々、火事ではしご車が
あつたという声があつたんです。そうすると、こういうやり方

うけから、こういうことが出来るのでしたら、はしご車というのは、非常に高いもうですか。二階ぐらいの災害をおさえること、一刻も早く何とか処置をできる方法は、私はあつ場合、はしご車があつたらいいやうな気がしたんですが、はしご車の設備に対する消防長の考え方、それから、そういうことは現在無理かどうか、そういうことも含ませてお聞きしたいと思ひます。

消防本部次長（岩田実君） 長い療養で家族が心配してゐるのではないか、こういう御心配でございまして、ごもつともでございします。

昨年の七月に事故がございまして、七月二十七日に事故がありまして入院いたしました。昨年いっぱい入院しておりまして、約半年弱でございしますか。二週間入院いたしました。それから本年の一月から、本人は勤務しておったわけでござい

います。ーカー、こゝも軽勤務と申しますか、望楼に立たせる
ようなこともいたしませんで、なるべく通信勤務のような楽な
勤務をいたさせまゝで、ずっと経過を見ておったわけでございまし
て、本年の六月に患部が痛いということ、で再び治療を受
けるという事態になったわけでございまして、非常におとう
さん、おかあさんにも配さしておらしたわけでございします。

労災病院にいくというものは、本人が労災病院にいつていいお医
者さんに見てもらいたいというので、我々もそいが一番いいのだ
という考え方で、ある七月二十三日に入院さしたわけでございま
す。それから小型ポンプでございしますが、予算計上り関係でぞ
うございますが、二十万五千円は、国、県、補助金でございまして
当初に組みました当初予算、う歳入のほか、ここに補助金
が支出される。こういうことになりまして、二十万五千円、ここに
記載したわけでございまして、その補助金がいわれる国、県

、消防に対する施設に対する補助である。こういう関係で、三目、消防施設費の欄にのっておるわけでございまして、直接小型動力ポンプによるものは九万円の補正をいただきまして、そうしてホース八本付けまして三十万も、を買わしていただきたい。こういうふうをお願いするわけでございます。

それから、はしご車の件でございますが、我々はおう場合にはしご車があつたらうというふうなことははじめてお聞きするわけでございます。実際問題といたしまして、はしご車を使用するには、相当広い道路が必要なわけでございまして、ああいう狹隘なところだと、なかなか大きなはしご車は入っていけないわけでございまして、はしご車にもいろいろありまして、大きい方は三メートルぐらいのもうございまして、短かいものが約一五メートルぐらいのもうが、一番低いもの

ございますが、実際に使用いたしましても先日の火災の際には一メートルかそこらの一番短かいものでなければ使用できなかったのではないかとこういうふうに考えます。

なお一メートルぐらい一番短かいのは、この車にいたしましても、約八百方ぐらいの価格がするようになっています。

消防長（星野清之助君） 柏谷消防士のごことで非常に御配慮をいただいております。ありがとうございます。

今、次長から、具体的に説明がありまして、具体的な面は省略させていただきますが、考え方を申し述べさせていただきます。あの事故は、御案内のとおりでございます。柏谷消防士の意思によつてけがをしたものでないことが明瞭でございます。従いまして、我々いたしましては、市長、助役、あるいは人事課長ともいろいろ相談しながら、本人のために十分考えまいて、できるだけたとえば、今回、市原の移送につきましても、車

を使用するとか、いろいろ考えまゐりていたっております。

給与面でございますが、これも先ほど申し上げましたようなことで、ずっと昇給いたっております。そのため昇給がス
トップしたというような事実はありません。

なお、本人も歸つてきたばかりでございます。これから一生懸命やるということでございますが、あまり無理をするな
ということでも、夜や望楼勤務等は、さしつかえさせ
まして、日勤という形で、ばらく様子を見る。だんだんな
ていくうちに様子がわかります。それで対処しようと思
えております。

それから、消防車のはしご車の件でございます。

一番安いでも九百万近くするわけでございます。

なお、先般の場合にはしご車があつたという声があつた
ということでございますが、今次長からもお話がありました。

ように、そういう声は全く聞いておりません。あるいはあったかもしれません。私どもが耳に入っておりません。

あつ場合に化学車があらばということ、私どもも聞いておりますし、私どもも考えております。なお、はしご車ということになりますと、道路の問題、収容する場所の問題、それから要員の問題にも関係して参ります。それから、館山市においてははしご車が必要かという問題もございまして、あるにこたへたことはございせんが、今う段階では、わかにはしご車を必要としないと考えております。

化学車については、今申し上げましたやうな次第でございまして、一四番（遠山ヨネ子君）消防長、御説明でよくわかつたし、給与も順調に進級していらつゝやるなら結構です。家族の気持もくんでなお、いさう考慮していただきたいと思ひます。

はしご車に拘泥していらつていますが、あつたうというあり程度の
の高さうところで何とかできなかったかという気持ちでいいまいた
から、よくわかりました。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございませんか。――御
質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よつて本案は

原案通り可決さかました。

こゝ際議事についておはかりいたします。

九月二十四日付で認可さしました館山市、富浦町、及び三芳村、学校給食組合規約の規定するところにより、同組合の議会の議員の選挙を本日の日程に追加し、ただちに選挙を行ないたいと思います。こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって組合議会議員の選挙を日程に追加し選挙を行なうことに決定いたしました。

こゝより館山市、富浦町、及び三芳村、学校給食組合議会の議員の選挙を行います。

おはかりいたします。

選挙の方法につきましては、地方自治法第百十八条第二項の規定により、指名推薦によりたいと思いますが、こゝに御異

議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は、指名推選によることに決まりました。
おはかりいたします。

指名の方法は議長において指名することにいたしたいと思
います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって議長
において指名することに決まりました。

三市町村学校給食組合議会議員に嶋田石蔵君、
西村真次君、小柴孝君、山田教宇君、島野茂樹
郎君、田中禄郎君、安沢徳順君、望月照正君。
以上八議員君を指名いたします。

おはかりいたします。

ただいま議長において指名いたしました八議員君を学校給食組合議会より議員より当選人と定めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よってただいま指名いたしました八議員君が館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会より議員に当選されました。

おはかりいたします。

本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって会議規則第七条の規定により本日をもって第三回市議会定例会を閉会いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって本定例

会はこのにて開会することに決定いたしました。
長時間にわたりご苦労までございました。

午後六時三十三分開会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に加えて

館山市 富浦町、及び三芳村 学校給食組合議会議員の選挙
議案第百七号 館山市教育委員会委員の任命について

出席議員

吉田 勇治 郎

石井 輝 久

嶋田 石 蔵

伊賀 多 朗

藤田 益 治

磯 辺 博

白熊 盛太郎

黒川 正

三幣

勇

西村真次

小柴

孝

山田教宇

遠山 三子

石井

正

五十嵐

昇

江田徳太郎

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

小澤恵太郎

飯田義男

田中祿郎

秋山六三郎

安澤徳順

望月照正

鈴木市蔵

山口 康

欠席議員

菊井敏博

関 武男

田村源治郎

出席説明者

一 第一日目に同じ

出席事務局取員

一 第一日目に同じ

昭和四十三年九月三十日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

吉田南治

同 署名議員

島野茂樹郎

同

小柴孝

